

地方独立行政法人岩手県工業技術センター
令和6事業年度業務実績報告書

令和7年6月

地方独立行政法人岩手県工業技術センター

目 次

1	法人の概要		1	IV	財務内容の改善に関する事項		39
2	全体的な状況とその自己評価		2	1	方針		39
3	項目別の状況		6	2	予算		43
I	中期計画の期間		6	3	収支計画		44
II	県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		6	4	資金計画		45
1	震災復興等への支援		7	V	短期借入金の限度額		46
2	企業活動への技術支援		9	VI	重要な財産の譲渡・担保計画		46
3	戦略的な研究開発		13	VII	剰余金の使途		46
4	ものづくり産業及び地場産業への支援		20	VIII	その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項		47
5	産業人材の育成		23	1	試験研究機器の整備・活用		47
6	連携・協働の推進		27	2	施設・設備の計画的な修繕・整備		48
7	情報発信の推進		29	3	人事に関する計画		49
8	主要なインプット情報		31				
III	業務運営の改善及び効率化に関する事項		32				
1	組織運営の改善		32				
2	効果的・効率的な事務処理		34				
3	職員の意欲向上と能力開発		35				
4	環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実		36				
5	コンプライアンスの徹底及び社会貢献活動への積極的な取組		38				

1 法人の概要

(1) 法人名

地方独立行政法人岩手県工業技術センター

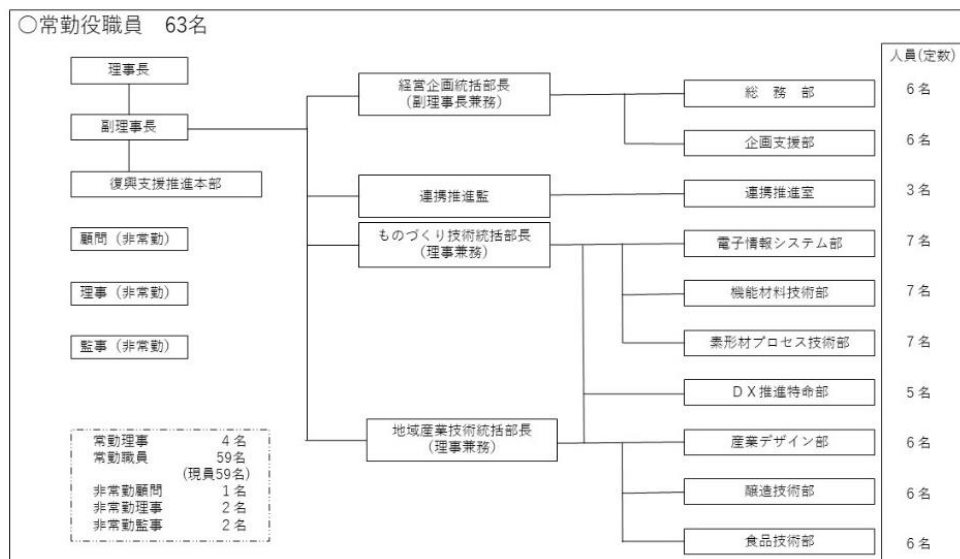
(2) 所在地

岩手県盛岡市

(3) 役員（令和6年4月1日現在）

理事長	熊谷 泰樹
副理事長	山村 勉（経営企画統括部長）
理事	桑嶋 孝幸（ものづくり技術統括部長）
理事	米倉 裕一（地域産業技術統括部長）
顧問（非常勤）	岩渕 明
理事（非常勤）	小山田 周右
理事（非常勤）	松岡 俊太郎
監事（非常勤）	三上 藤雄
監事（非常勤）	菅原 繁雄

(4) 組織



（人員は令和6年4月1日現在）

(5) 法人の特徴等

ア 沿革

地方独立行政法人岩手県工業技術センター（以下「センター」という。）は、明治6年(1873)に岩手県勸業試験所という名称で、農工振興を目的に日本で最も古い公設試験場として創立されました。大正10年(1921)には岩手県工業試験場と改称され、工業系試験研究機関としての原型が完成しました。

その後、昭和18年(1943)、岩手県工業指導所と改称し、昭和27年(1952)には醸造部を設置しましたが、昭和41年(1966)には同醸造部が分離独立し、岩手県醸造試験場（後の醸造食品試験場）として発足、昭和43年(1968)工業指導所は紫波郡都南村津志田（現盛岡市津志田）に庁舎を新築し、再び岩手県工業試験場と改称しました。

平成6年(1994)、県の試験研究機関再編のトップを切って、岩手県工業試験場、岩手県醸造食品試験場の両試験場が統合され、現在の場所に岩手県工業技術センターとして開所しました。

平成15年(2003)には金属材料部と化学部を統合し、材料技術部を設置。応用生物部と食品開発部を統合し、食品技術部を設置。9部制から7部制へと再編が進みました。平成17年(2005)には特産開発デザイン部を廃止し、企画情報部とデザイン部門を統合して企画デザイン部を設置したほか、環境技術部を新たに設置しました。

以上のような変遷を経て、平成18年(2006)4月、全国公設試初の地方独立行政法人としての歩みを開始いたしました。

以降、平成19年(2007)には、食品産業の支援強化を図るため食品技術部と醸造技術部を統合して食品醸造技術部を設置し、平成20年(2008)には一部部間の職員の再配置を行い、電子機械技術部を電子情報技術部と改称しました。平成24年(2012)には支援体制の強化や支援機能の一層の充実を図るため、環境技術部と材料技術部を統合し、ものづくり基盤技術第1部及び第2部として再編整備し、企画デザイン部を企画支援部として改組しました。また、所内プロジェクトチームとして復興支援室を設置し復興支援業務の推進体制を整備しました（平成25年に復興支援プロジェクトチームに改称、平成26年には復興支援推進本部として体制を拡充）。平成26年(2014)には、内部調整機能や技術部門の復興・技術支援機能の強化のため、企画支援部にあったデザイン・木工部門をデザイン部に、食品醸造技術部を醸造技術部と食品技術部に再編整備しました。平成28年(2016)には、電子情報技術部、機能表面技術部、素形材技術部の3部を統括する、ものづくり技術統括部長並びにデザイン部、醸造技術部、食品技術部の3部を統括する地域産業技術統括部長を置くとともに、連携推進室を設置しました。平成30年(2018)には、国際規格に対応した大型電波暗室などを備える新たな研究施設「ものづくりイノベーションセンター」を開設しました。令和元年(2019)には、電子情報技術部を電子情報システム部に、機能表面技術部を機能材料技術部に、素形材技術部を素形材プロセス技術部に、デザイン部を産業デザイン部と改称し、デザイン支援の拠点として「デザインラボ」を開設しました。令和2年(2020)にはヘルスケア関連産業の集積と拠点形成を図るため「ヘルステック・イノベーション・ハブ」を開設しました。令和5年(2023)には、県内企業のD X推進に関する支援の窓

口として、「DX推進特命部」を新設しました。

イ 基本理念と中期目標・中期計画

センターは、企業や地域が気軽に相談できるサービス機関を目指し、「創るよろこび」を共有しながら産業振興と県政課題解決の両面において「地域貢献」することを基本理念としています。

県が策定した第4期中期目標では、センターはSociety5.0 や SDGs 等の大きな社会情勢や環境の変化にも柔軟に対応しながら、経営資源の一層の効率的・効率的な配置等による支援体制の強化と安定的な業務運営を図り、質の高いサービスの提供と、企業等の生産性や付加価値の向上等への取組を通じて、本県産業の振興と県政課題の解決に貢献するとしています。

この中期目標を受けてセンターでは、目標達成のための道筋を、より具体的に示す第4期中期計画を策定し、各般にわたる活動に取り組んでいます。

2 全体的な状況とその自己評価

(1) はじめに

センターは、平成18年4月に、全国初の地方独立行政法人（以下「独法」という。）である試験研究機関としてスタートを切り、以降、着実な運営を行ってきました。

センターは、独立行政法人に移行するに当たり、中期目標に基づく5年間の中期計画を策定するとともに、毎年度、年度計画を取りまとめ、それらに基づく組織運営に努めています。

独法化初年度の平成18年度より独法化メリットを生かした新規サービスを開始し、目標を超える成果を示しましたが、続く平成19年度から22年度においても法人運営を安定的な軌道に乗せる着実な実績をあげてきました。

平成23年度から27年度までの第2期中期計画期間は、東日本大震災津波からの復旧・復興を最重要課題とし、所内に設置した「復興支援推進本部」を中心に、組織を挙げて被災地の復興に向けた支援事業に取り組みました。また、企業のニーズに的確に対応する支援体制の強化、戦略的な研究開発に基づく地域産業の振興に向けて各般の取組を展開しました。

平成28年度から令和2年度までの第3期中期目標期間においては、技術支援や共同研究等の質の高いサービスを基本に、本県の産業振興に貢献する各種取組を推進するとともに、支援機能等をより一層強化するため、「ものづくりイノベーションセンター」、「デザインラボ」及び「ヘルステック・イノベーション・ハブ」の整備に取り組みしました。

独法化19年目を迎えた令和6年度は、第4期中期目標及び中期計画の4年度目に当たり、過去18年間の成果を生かしながら本県の産業振興に貢献するべく、基本方針として次の3項目を定め、各種業務に取り組みました。

- 1 企業に信頼されるセンターの構築
 - ・ 本センターの基本理念である「創るよろこび、地域貢献」のもと、社会環境の変化に対応しながら、経営資源の一層の効率的・効果的配置と安定的な業務運営に取り組み、技術支援と研究開発の推進により、企業の成長や地域社会の発展に寄与する。
 - ・ 人材育成ビジョンに基づく職員研修を通じ、職員の能力向上とモチベーションの向上を図る。
- 2 県の課題解決に向けた取組
 - ・ 東日本大震災津波からのより良い復興に向けて、センター内に設置した復興支援推進本部を核に、関係機関と連携・協働しながら、生産性の向上や新たな価値の創造に向けた取組を技術面から支援する。
 - ・ 自動車・半導体や医療機器など、県の重点産業分野について、県内企業の参入に向けた技術支援等に取り組む。特に、ものづくりイノベーションセンターを活用しながらIoT、三次元デジタル技術等を活用したものづくりDXシステムの導入支援や製品の国際化対応、ヘルステック・イノベーション・ハブの運営によるヘルスケア関連産業の拠点形成に向けた技術支援を積極的に実施する。
 - ・ 地場産業の持続的成長や海外展開に向けて、新商品開発やブランド化、生産性の向上等のための技術支援等に取り組む。
- 3 研究開発型・課題解決型企業の創出と関係機関との連携・協働
 - ・ 研究開発型・課題解決型企業の創出に向け、企業ニーズに基づく共同研究や人材育成に取り組む。
 - ・ センターの研究成果等の技術移転に取り組み、技術移転先企業における事業化を支援する。
 - ・ 限られたセンターの資源を生かし、企業等の幅広いニーズに対応するため、大学、研究機関、産業支援機関など、県内外の関係機関との連携・協働を推進する。

(2) 全体的な計画の進行状況

第4期中期計画期間の4年度目となる令和6年度は、高い満足度の得られる技術支援サービスを基本に、研究開発、研究成果の技術移転、人材育成等を積極的に推進することにより、東日本大震災津波や相次ぐ自然災害等からの復興、地域産業の活性化、企業等の付加価値向上などの県政課題の解決に向けて、地域企業等を技術面から支援することに取り組みました。

その結果、令和6年度評価対象となる29項目中27項目において「計画どおりに進んでいる（A評価以上）」との自己評価を行うことができました（表1）。

また、令和6年度計画において指標設定した25項目についても24項目で目標を達成できました（表2）。達成できなかったのは、知的財産創出件数に関するもので、C評価

となっています。

表 1 評価項目の自己評価状況

評価区分	項目数	構成比
A A	0	0.0%
A	27	93.1%
B	1	3.45%
C	1	3.45%
D	0	0.0%
計	29	100.0%

表 2 指標の達成状況

	項目		単位	R 6 目標	R 6 実績	実績/ 目標	頁
1	復興支援	重点支援企業数	社	10	10	100%	7
2	企業活動への技術支援	依頼試験・設備機器貸出件数	件	7,500	15,415	206%	9
3	技術相談	企業訪問数	件	350	402	115%	9
4		技術相談件数	件	3,000	3,204	107%	9
5		利用企業の満足度	%	80	97	+17p	9
6		相談解決度	%	80	98	+18p	9
7	依頼試験	利用企業の満足度	%	80	97	+17p	11
8	設備機器貸出	利用企業の満足度	%	80	98	+18p	11
9	戦略的な研究開発	外部資金採択件数	件	3	4	133%	13
10		成果報告件数	件	90	139	154%	13
11		うち外部での報告	件	50	68	136%	13
12		研究テーマ数	件	50	60	120%	13
13	共同研究	共同研究企業満足度	%	80	94	+14p	16
14		新規共同研究企業数	件	3	4	133%	16
15	技術シーズ創生研究	成果展開研究テーマ数	件	10	20	200%	16

16	研究成果の	技術移転件数	件	30	61	203%	17
17	事業化支援	事業化支援件数	件	5	5	100%	17
18	知的財産	知的財産創出件数	件	8	4	50%	18
19	ものづくり産業、地場産業への支援	共同研究件数	件	17	18	105%	20
20	産業人材の育成	講習会・研究会開催件数	件	30	83	277%	23
21		技術人材受入研修数	件	15	32	213%	23
22		講習会・研究会満足度	%	80	95	+15p	23
23		研究開発型人材育成利用企業満足度	%	80	94	+14p	23
24	連携・協働の推進	新規連携取組件数	件	3	3	100%	27
25	情報発信の推進	H P アクセス数	回	46,000	53,382	116%	29

※ 網掛け部分は中期計画において目標設定されているものを示す。表中の「p」はポイントの意味。

(3) 全体評価に規定する事項

ア 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項`

① 震災復興への支援

東日本大震災津波の発災から 13 年が経過し、事業を再開した事業者の生産性の向上や、新たな価値創造への復興プランを支援するため、企業訪問により個々の企業のニーズを調査しながら、技術開発・商品開発・品質改良等の支援に重点的に取り組みました。その推進に当たっては、センター内に設置した復興支援推進本部を中心とした体制を継続するとともに、関係機関に対してセンターの支援制度を周知し、情報共有しながら取組を進めました。センターの復興支援活動を示す指標として、被災 12 市町村における重点支援企業数を設定し、令和 6 年度は目標 10 社に対して実績 10 社と目標を達成することができました。

② 企業活動への技術支援

企業訪問、技術相談、依頼試験等・設備機器貸出については、いずれも目標件数を上回ることができました。また、前年の顧客満足度調査の結果等に基づく改善に努め、満足度や相談解決度についても、数値目標を達成することができました。また、技術相談の他、セミナー開催、成果報告会など様々な場面でオンライン会議システムを併用するなどし、弾力的な支援を実施しています。

③ 戦略的な研究開発

研究開発については、研究テーマ数、外部資金採択件数、成果報告件数、外部での成果報告件数、共同研究企業満足度、新規共同研究企業数、成果展開研究テーマ数、技術移転件数、事業化支援件数、について目標を達成しました。

県政課題等解決のための研究としては、ものづくり DX システム構築支援強化のための研究開発（研究4テーマ）、i-SB法を活用したDX・GX支援（8社の試作・開発）、岩手県育成水稻系統の米粉利用適性に関する試験研究に取り組みました。

産学官共同研究としては、海洋生物付着防止表面処理技術に関する研究開発、分子接合技術を活用した異種材料の接合・剥離の技術開発に取り組みました。

企業ニーズに対応した共同研究および受託研究としては、18テーマを実施しました。

技術シーズ創生のための研究としては、技術シーズ創生・発展研究事業として、将来的に県内企業への寄与が見込まれる研究や調査研究を行う「可能性調査研究」、所内審査によりテーマを決定し競争的外部資金の獲得等に向けステップアップを図る「発展研究」の各研究を実施しました。可能性調査研究では27テーマ、発展研究では5テーマを実施しました。

研究成果の事業化支援としては、成果発表会や講習会の開催、研究成果集や技術情報の発行、プレスリリースや学会発表を通じて、成果の技術移転に取り組んだほか、事業化に向けてさらに技術の開発を行う事業化支援事業なども活用し、61件の技術移転と5件の事業化支援を実施しました。

知的財産の創造・保護・活用では、特許出願1件、著作物の作製1件、ノウハウの創出2件の合計4件を実施しましたが目標には到達できませんでした。

④ ものづくり産業及び地場産業への支援

企業との共同研究数は目標17件に対し、実績18件で目標を達成しました。

ものづくり産業への支援としては、「①技術の高度化に関する支援」として、ものづくりイノベーションセンター（次世代ものづくりラボ・EMC評価ラボ）を活用し、県内企業のものづくりDXシステム導入への取組を支援しました。また、自動車・半導体・地域クラスターに係る県内産学官による協議会活動に参加し、参入及び取引拡大を目指す企業の取組を支援しました。「②新産業創出に向けた支援」としては、加速器関連産業研究会に参加し企業の技術開発や課題解決の支援、ヘルステック・イノベーション・ハブ（HIH）の管理・運営等の支援を行いました。

地場産業への支援としては、「①商品企画に対する支援」として、「まんずデザイン相談の日」（月1回）を開催し、商品開発等への課題を抱える事業者へ個別対応しました（16者）。「②食産業に対する支援」として岩手県産木質チップを利用した新商品の開発（フレーバー付与）や販売促進への支援、県北部で栽培可能な大吟醸用酒米品種や吟ぎんが、ぎんおとめの後継品種を目標とした酒米の検討、クラフトサケやビール用酵母の抽出と商品化支援を行いました。「③伝統産業、漆産業に対する支援」としては、デザインラボへのニーズ掘り起こしと支援メニュー活用を図る「まんずデザイン相談の日」を実施するとともに、技術シーズ創生・発展研究において、

NC加工機による木製品の量産化を支援しました。

⑤ 産業人材の育成

企業人材の技術高度化支援では、研究開発型人材育成事業、ものづくりAI活用人材育成事業、講習会の開催や研究会補助などを行い、それぞれの企業が抱える技術課題解決を通じ育成を図ることで、94%の満足度を達成しました。

次代を担う産業人材の育成では、ものづくりDXシステム導入支援強化事業における人材育成やセミナー実施、いわて半導体関連産業集積促進協議会における一関高専の学生向けセミナー開催、伝統工芸者（塗師）対象の技術講座などの開催により、技術人材の育成を支援しました。

⑥ 連携・協働の推進

県内外機関との新規連携取組件数は目標3件に対して実績3件、外部資金新規採択件数は目標3件に対して実績4件となり、それぞれ目標を達成しました。

関係機関との連携交流としては、外部機関との連携窓口である連携推進室が中心となり、信用保証協会との連携を強化したほか、NEDOの補助金を活用した連携プロジェクトを実施しました。全国・東北公設試との連携交流では産業技術連携推進会議参加や北東北3県共同研究、中東北3県共同研究等に取り組みました。

⑦ 情報発信の推進

ホームページアクセス数は目標46,000回に対し実績は53,382回となり、目標を達成しました。

広報資料として、技術情報誌・最新成果集などの印刷物を発行しました。また、プレスリリースの実施、成果発表会の開催、ホームページへの新着情報掲載、デザインラボ Facebook（SNS）への新着情報掲載などの発信を行いました。さらに、公式YouTubeチャンネルの運用では、センター設備紹介等の充実や、子供たちが科学技術に関心を示すようなコンテンツを配信するなど、SNSや動画メディアを通じた情報発信の強化に取り組みました。

イ 業務運営の改善及び効率化に関する事項

① 組織運営の改善

毎月、内部統制推進委員会を開催し、コンプライアンス訓示を行うなど、内部統制システムの強化を進めました。

また、業務の質の向上等を目的とする研修を企画・実施し、職員の意識の向上に努めました。

② 効果的・効率的な事務処理

事務分担の随時見直しや超過勤務の事前命令徹底等、超過勤務縮減の取組を継続した結果、職員1人当たりの月平均超過勤務時間は5.0時間と前年度より0.9時間減少しました。

また、電子決裁の導入を行い、文書決裁の効率化、センター内のデジタル化を進めました。

③ 職員の意欲向上と能力開発

研究業務や管理業務を通じ高い評価の事績を挙げた職員等を対象に、理事長大賞等の表彰を行うとともに、職員満足度アンケート、理事長と職員との懇談により職員の意見を聴く仕組みを構築し、職員のモチベーション向上に努めました。

また、公設試職員としての能力向上や企業支援の業務遂行能力向上のため中小企業大学校の研修に職員を派遣するとともに、職員自身の希望に基づく公募型職員研修に15名が応募・受講しました。職員が専門技術や高度な解析手法等を習得し、職員のモチベーション向上にも寄与しています。

④ 環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実

環境マネジメントについては、「岩手県工業技術センターエコマネジメントシステム」の運用に努めた結果、電力使用量、重油使用量、プロパンガス使用量、水道使用量、産業廃棄物排出量とも管理指標を下回り、目標を達成しました。

安全衛生マネジメントでは、毎月の安全衛生委員会で超過勤務、休暇取得等の状況を共有するとともに、職場の安全相互診断の実施等により労働災害の発生防止に取り組みました。

県から認定を受けている「いわて女性活躍認定企業等（ステップ2）」は更に3年間認定を更新しました。

⑤ コンプライアンスの徹底及び社会貢献活動への積極的取組

職員がコンプライアンスの意識を自己検証するコンプライアンスチェックを実施し、コンプライアンス全般に係る取組の徹底を図りました。

社会貢献活動については、インターンシップの受入、献血や災害救援募金への協力等に取り組みました。

ウ 財務内容の改善に関する事項

使用料・手数料等の自己収入額（ヘルステック・イノベーション・ハブを除く）は、企業訪問等を通じて県内企業にセンターの利用を働き掛けたものの、前年度より6百万円近く減少し、目標を達成できませんでした。

なお、事業の効率化や優先度に配慮した予算執行に努めた結果、当期総利益を計上することができました。

エ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

試験研究機器の整備・活用については、「（公財）JKA機械振興補助事業」によりマイクロフォーカスX線CT装置を導入するとともに、既存の試験研究機器の定期保守点検など適切な維持管理にも努めました。

施設・設備の計画的な修繕・整備については、厳しい財政状況のなか、施設設備修繕計画に基づき必要な修繕を行いました。

3 項目別の状況

I 中期計画の期間

中期計画	中期計画の期間は、令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間とする。
------	--

II 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

中期目標	地方独立行政法人のメリットである自主性・自律性を生かしながら、質の高いサービスを基本に、研究開発、研究成果の技術移転、人材育成等を積極的に推進することにより、東日本大震災津波や相次ぐ自然災害等からの復興、地域産業の活性化、企業等の付加価値向上などの県政課題の解決に向けて、地域の企業等を技術面から支援する。 また、企業等のニーズに合致した技術支援や研究開発とするため、必要に応じてアンケートや外部評価を実施し、その結果を業務に反映させる。
------	--

中期計画	センターは地方独立行政法人のメリットである自主性・自律性を生かしながら、高い満足度の得られる技術支援を基本に、研究開発、研究成果の技術移転、人材育成等を積極的に推進することにより、東日本大震災津波や相次ぐ自然災害等からの復興、地域産業の活性化、企業等の付加価値向上などの県政課題の解決に向けて、地域の企業等を技術面から支援する。 実施する業務は、その基本的な性質別に「震災復興等への支援」「企業活動への技術支援」「戦略的な研究開発」「ものづくり産業及び地場産業への支援」「産業人材の育成」「連携・協働の推進」「情報発信の推進」の7分野とする。 業務推進に当たっては、顧客である企業等の満足度調査や外部評価等によりニーズや改善事項等を把握しながら、引き続き、岩手県工業技術センター技術ロードマップ（以下「技術ロードマップ」という。）によりセンターとしての技術・研究開発の方向性を共有し、戦略的に取組を進める。 職員の人材確保と能力向上に取り組むとともに、外部人材や研究スタッフなどの支援人材を活用し、技術支援への対応力を高める。 また、センターを取り巻く社会情勢等を踏まえ、年度計画において、中期計画を実行するための実施内容を設定することにより業務の計画的管理を行う。
------	---

1 震災復興等への支援

中期目標	被災企業の経営全体を見据えた復興に向けて、関係機関との連携・協働を推進しながら、センターの持つ技術資源を活用した技術相談や共同研究により、生産性の向上や新たな価値の創造などを技術面から支援する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																															
東日本大震災津波からのより良い復興に向けて、復興の新たなステージへ移行する企業等に対し、センターの持つ技術資源を活用しながら、企画・開発から製品化、事業化までを重点的に支援する。 推進に当たっては、引き続き、センター内に設置した復興支援推進本部を中心とした体制を継続するとともに、関係機関に対してセンターの支援制度を周知し、情報共有しながら取組を進める。 また、中期目標期間中に新たな災害が発生した時には、その都度必要な技術支援を実施する。 数値目標は、センターの復興支援活動を示す指標として、被災 12 市町村における重点支援企業数を設定する。 【数値目標】 被災 12 市町村における重点支援企業数 5 年間で 50 社	○ センター内に設置した復興支援推進本部を核に、被災企業の復興の進捗状況や直面する課題にきめ細かに対応した各種支援サービスを実施する。 ○ 復興の新たなステージに向け生産性の向上や新たな価値創造に取り組む企業を重点的に支援する。 ○ 新たな災害が発生した時には、その都度必要な技術支援に取り組む。 【数値目標】 ・被災 12 市町村における重点支援企業数 10 社/年 【取組項目】 ①重点支援 ・センターの持つ技術資源を活用し、企画、製品開発・技術開発、製品化、事業化までを総合的に支援 ②技術支援 ・企業訪問：ニーズ調査及び技術支援のための企業訪問 ・相談会：関係機関が開催する相談会への職員派遣 ・依頼試験・設備機器貸出等：分析・測定・試験等、所有機器の貸出 ③人材育成支援、知財支援 ・研究開発型人材育成：研究開発能力向上等を目的とした技術者の受入 ・講習会：ものづくり技術や商品開発力向上のための講習会開催 ・知財化支援：知財の権利化支援	■重点支援企業数 10 社（目標達成） 【自己評価理由】 重点支援企業を 10 社設定し、特記事項記載のテーマにより、商品開発、生産工程の改良、製品化など、重点的に支援した。また、支援企業の更なる掘り起しを図るため、積極的な企業訪問（98 件）、センターの技術説明会、相談会の開催や、放射線対策への支援を行った。	A		<table><tr><th colspan="7">●復興支援推進本部の体制</th></tr><tr><td>本部長</td><td colspan="6">理事長</td></tr><tr><td>副本部長（総括）</td><td colspan="6">副理事長</td></tr><tr><td>副本部長</td><td colspan="6">常勤理事（2 名）、連携推進監</td></tr><tr><td>本部員</td><td colspan="6">顧問（1 名）、部長（8 名）</td></tr><tr><td>事務局員</td><td colspan="6">復興事業担当及び放射線担当各 1 名</td></tr></table> ●重点支援企業数（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>50</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>実績</td><td>40</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td></td></tr></table> ※中期計画では 5 年間の目標値としているもの ①重点支援（継続 6 社、新規 4 社） R6 年度重点支援テーマ 1. 鑄造用砂型の加工技術の開発及び技術普及支援（R3～） 2. 試作コールドスプレー装置による光触媒材料の成膜（R3～） 3. 昆布加工装置の改良と昆布のうまみ成分の分析（R3～R6） 4. 分子接合剤を用いた 3D MID 製造技術の開発（R3～） 5. 搬送ロボットによる運搬業務の自動化（R3～） 6. 燃料電池の量産検討に係るカーボン利用技術、分析技術、国内外動向調査等の支援（R5～） 新規 7. 木質チップの生産性向上と販売促進（R6～） 8. 醸造用ブドウ育成条件によるワイン醸造の検討（R6） 9. 地域産材を活用した商品開発とプロモーション支援（R6） 10. 分子接合技術を活用した NBR ゴム製品の試作評価（R6）	●復興支援推進本部の体制							本部長	理事長						副本部長（総括）	副理事長						副本部長	常勤理事（2 名）、連携推進監						本部員	顧問（1 名）、部長（8 名）						事務局員	復興事業担当及び放射線担当各 1 名							中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	50	10	10	10	10	10	実績	40	10	10	10	10	
●復興支援推進本部の体制																																																																				
本部長	理事長																																																																			
副本部長（総括）	副理事長																																																																			
副本部長	常勤理事（2 名）、連携推進監																																																																			
本部員	顧問（1 名）、部長（8 名）																																																																			
事務局員	復興事業担当及び放射線担当各 1 名																																																																			
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	50	10	10	10	10	10																																																														
実績	40	10	10	10	10																																																															

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
	④放射線対策支援 ・相談対応：放射性物質の濃度測定や表面汚染等に関する相談 ・放射線量測定：Ge 半導体検出器等による測定				②技術支援 ・企業訪問 98 件 ・関係機関の要請等に基づく企業訪問 3 回 ・依頼試験 21 件、機器貸出 41 件 ③人材育成支援・知財支援 ・研究開発型人材育成 2 件 ・講習会 4 回 ・知財化支援 0 件 ④放射線対策支援 ・相談対応 5 件 ・放射線量測定 1 件（1 検体）、不検出 ⑤その他 ・復興支援推進本部会議の設置、4 回開催（4、7、10、1 月）

2 企業活動への技術支援

中期目標	研究成果や職員の専門的知識等を活用した技術相談、依頼試験への対応のほか、設備機器の貸出しなどを通じて県内企業の活動を技術面から支援する。 また、センターの技術支援への対応力を高めるとともに、県内外の関係機関と連携しながら、顧客である企業等のニーズに応えるサービスのより一層の向上を図る。 (1) 技術相談 企業等の課題解決のため、センターにおける技術相談のほか、定期的な巡回やオンライン活用等により相談の機会を拡充し、内容に応じた適切な助言などの支援を行う。 (2) 依頼試験等 企業等からの分析、測定、試験等の依頼に的確・迅速に対応するとともに、ニーズの高度化・多様化に応じたサービスの充実を図る。 (3) 設備機器貸出 企業等のニーズに対応した設備機器の充実を図りながら、円滑な利用に向けた環境を整備し、利用促進のための積極的なPRに取り組む。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																															
公設試験研究機関において、技術相談や依頼試験等の業務は基本的なサービスであり、研究成果や職員の専門的知識等を活用した技術相談、依頼試験への対応のほか、設備機器の貸出などを通じて県内の企業活動を支援する。 また、センターの技術支援への対応力を高めるため、職員の能力向上や外部人材の活用を進めるとともに、県内外の関係機関と連携しながら、顧客である企業等のニーズに応えるサービスのより一層の向上を図る。	○ 研究成果や職員の専門的知識等を活用した技術相談、依頼試験への対応のほか、設備機器の貸出などを通じて県内の企業活動を支援する。 ○ センターの技術支援への対応力を高めるため、職員の能力向上や外部人材の活用を進めるとともに、県内外の関係機関と連携しながら、顧客である企業等のニーズに対応したサービスの一層の向上に努める。 【数値目標】 ・依頼試験・設備機器貸出件数 7,500 件/年	■ 依頼試験・設備機器貸出件数の合計 15,415 件（目標達成） 【自己評価理由】 積極的な企業訪問による新規企業の開拓、セミナー等への職員派遣による職員の能力の向上、顧客企業の分析能力やデータ活用能力の向上の支援などを通じて、県内企業の活動を支援することで、技術相談・依頼試験・機器貸出の満足度が高まり、目標件数を達成した。	A		● 依頼試験・機器貸出件数（件） <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>7,500</td><td>7,500</td><td>7,500</td><td>7,500</td><td>7,500</td></tr><tr><td>実績</td><td>7,976</td><td>15,903</td><td>15,591</td><td>15,415</td><td></td></tr></table> ※依頼試験件数増加の理由 ・ 清酒酵母の依頼加工のカウント方法を変更（6000 件程度増） ・ 耐候性試験機の更新で依頼試験件数が増加（1500 件程度） ・ 依頼試験等件数 13,121 件、手数料収入 18,556,000 円 ・ 設備機器貸出件数 2,294 件、使用料収入 17,998,285 円（ヘルステック・イノベーション・ハブ 使用料を除く）		R3	R4	R5	R6	R7	目標	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	実績	7,976	15,903	15,591	15,415																																														
	R3	R4	R5	R6	R7																																																															
目標	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500																																																															
実績	7,976	15,903	15,591	15,415																																																																
(1) 技術相談 技術相談はセンター業務の中で最も基本となるサービスであり、企業等にとっては技術的な課題等を解決する入口となるものである。 このため、来所、電話、メールといったこれまでの手法にオンラインを加えることにより相談の機会を拡充するほか、定期的な巡回を含む企業訪問や外部機関が実施する相談会への職員派遣等現場に出向いた技術相談も実施しながら、適切な助言などの支援を行う。	(1) 技術相談 企業等の技術的な課題等の解決に向けた適切な助言を行う。 技術相談時には、企業等のニーズを把握するほか、依頼試験や設備機器貸出等のセンター利用方法の案内、研究成果等の紹介等を行う。 【数値目標】 ・ 企業訪問数 350 件/年 ・ 技術相談件数 3,000 件/年 ・ 技術相談利用企業の満足度 80% ・ 技術相談解決度 80%	(1) 技術相談 【数値実績】 ■ 企業訪問数 402 件（目標達成） ■ 技術相談件数 3,204 件（目標達成） ■ 利用企業の満足度 97%（目標達成） ■ 技術相談解決度 98%（目標達成）	A		● 企業訪問数（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>-</td><td>350</td><td>350</td><td>350</td><td>350</td><td>350</td></tr><tr><td>実績</td><td>-</td><td>350</td><td>390</td><td>440</td><td>402</td><td></td></tr></table> ● 技術相談件数（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>15,000</td><td>3,000</td><td>3,000</td><td>3,000</td><td>3,000</td><td>3,000</td></tr><tr><td>実績</td><td>13,654</td><td>3,580</td><td>3,514</td><td>3,356</td><td>3,204</td><td></td></tr></table> ● 技術相談利用企業の満足度（%） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>97</td><td>95</td><td>98</td><td>98</td><td>97</td><td></td></tr></table>		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	-	350	350	350	350	350	実績	-	350	390	440	402			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	15,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	実績	13,654	3,580	3,514	3,356	3,204			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	97	95	98	98	97	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	-	350	350	350	350	350																																																														
実績	-	350	390	440	402																																																															
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	15,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000																																																														
実績	13,654	3,580	3,514	3,356	3,204																																																															
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	80	80	80	80	80	80																																																														
実績	97	95	98	98	97																																																															

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																																			
また、技術相談時には、企業等のニーズを把握するほか、依頼試験や設備機器貸出等のセンター利用方法の案内、研究成果の紹介等も行う。 数値目標は、センターの利用度を示す指標として技術相談件数を、サービスの質を示す指標として利用企業の満足度及び技術相談解決度を設定する。 【数値目標】 技術相談件数 5年間で15,000件 技術相談利用企業の満足度 80% 技術相談解決度 80%	【取り組み項目】 ①相談対応 - 来所、電話、メールといったこれまでの手法にオンラインを加え相談の機会を拡充 - 外部機関が実施する相談会に職員を派遣 - 顧客満足度調査結果に基づく改善事項分析及び職員への周知徹底 ②企業訪問 - 現場に出向いた技術相談の実施 - 企業ニーズ把握やセンター利用促進等のための企業訪問実施	【自己評価理由】 積極的に企業訪問を行い、新規企業の開拓に努めるとともに、Webでの対応など、弾力的な相談対応を図ったことにより、目標以上の企業訪問件数・技術相談件数となった。 また、これまでの顧客満足度調査結果を踏まえ、改善や迅速な対応に努めた結果、目標以上の高い満足度や技術相談解決度が得られた。			●技術相談解決度（％） <table><tr><th></th><th>中期計画</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>98</td><td>98</td><td>98</td><td>98</td><td>98</td><td></td></tr></table> ●技術相談件数の内訳 <table><tr><td>来所対応</td><td>1,230件</td></tr><tr><td>電話対応</td><td>570件</td></tr><tr><td>メール対応</td><td>841件</td></tr><tr><td>オンライン対応</td><td>59件</td></tr><tr><td>企業訪問</td><td>402件</td></tr><tr><td>その他訪問</td><td>102件</td></tr><tr><td>他機関紹介</td><td>0件</td></tr><tr><td>計</td><td>3,204件</td></tr></table> ●顧客満足度調査結果(技術相談) <table><tr><td>満足</td><td>144(87%)</td></tr><tr><td>どちらかという満足</td><td>8(11%)</td></tr><tr><td>どちらでもない</td><td>4(3%)</td></tr><tr><td>どちらかという不満</td><td>1(1%)</td></tr><tr><td>不満</td><td>0(0%)</td></tr></table> 満足ではない理由（選択項目） - もっと多くの事項に対応してほしい - 担当者の知識・技術を充実してほしい ●技術相談解決度について <table><tr><td>解決</td><td>2,226件</td></tr><tr><td>完結</td><td>911件</td></tr><tr><td>解決小計</td><td>3,132件(98%)</td></tr><tr><td>他機関紹介</td><td>23件</td></tr><tr><td>対応不能</td><td>13件</td></tr><tr><td>反応待ち</td><td>21件</td></tr><tr><td>未完</td><td>0件</td></tr><tr><td>その他</td><td>10件</td></tr><tr><td>未解決小計</td><td>72件(2%)</td></tr><tr><td>総計</td><td>3,204件</td></tr></table> ※その他：今後共同研究や人材育成に発展させる予定とのこと		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	98	98	98	98	98		来所対応	1,230件	電話対応	570件	メール対応	841件	オンライン対応	59件	企業訪問	402件	その他訪問	102件	他機関紹介	0件	計	3,204件	満足	144(87%)	どちらかという満足	8(11%)	どちらでもない	4(3%)	どちらかという不満	1(1%)	不満	0(0%)	解決	2,226件	完結	911件	解決小計	3,132件(98%)	他機関紹介	23件	対応不能	13件	反応待ち	21件	未完	0件	その他	10件	未解決小計	72件(2%)	総計	3,204件
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																																		
目標	80	80	80	80	80	80																																																																		
実績	98	98	98	98	98																																																																			
来所対応	1,230件																																																																							
電話対応	570件																																																																							
メール対応	841件																																																																							
オンライン対応	59件																																																																							
企業訪問	402件																																																																							
その他訪問	102件																																																																							
他機関紹介	0件																																																																							
計	3,204件																																																																							
満足	144(87%)																																																																							
どちらかという満足	8(11%)																																																																							
どちらでもない	4(3%)																																																																							
どちらかという不満	1(1%)																																																																							
不満	0(0%)																																																																							
解決	2,226件																																																																							
完結	911件																																																																							
解決小計	3,132件(98%)																																																																							
他機関紹介	23件																																																																							
対応不能	13件																																																																							
反応待ち	21件																																																																							
未完	0件																																																																							
その他	10件																																																																							
未解決小計	72件(2%)																																																																							
総計	3,204件																																																																							

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																															
(2) 依頼試験等 民間の試験分析機関が乏しい本県において、依頼試験等は、企業等がセンターに期待する重要な業務であり、また、機器貸出とともに企業等のコストダウンにも大きく貢献する業務である。 このため、高度化・多様化する企業等からの分析・測定・試験等の依頼に正確・迅速に対応する。 また、職員の研修等への派遣による対応能力向上に加え、試験分析機器等の計画的な導入・保守・更新により、サービスの充実を図っていく。 数値目標は、サービスの質を示す指標として依頼試験等利用企業の満足度を設定する。 【数値目標】 依頼試験等利用企業の満足度 80%	(2) 依頼試験等 企業等の依頼に正確・迅速に対応するとともに、ニーズの高度化・多様化に対応し、分析・測定・試験等のサービスの充実を図る。 【数値目標】 依頼試験等利用企業の満足度 80% 【取組み項目】 ①依頼試験・依頼加工 ・研修等への職員派遣による対応能力の向上 ・試験分析機器等の計画的な導入・保守・更新の実施	(2) 依頼試験等 ■利用企業の満足度 97%（目標達成） ●依頼試験等件数 13, 121 件【再掲】 【自己評価理由】 最新技術に係るセミナー等に積極的に派遣するなど、職員の対応能力の向上に努めるとともに、測定原理や測定データ活用に関するセミナーの開催など、顧客企業の分析能力やデータ活用能力の向上を支援したことで、利用企業からの高い満足度を得ることができた。また特記事項に記載のとおり、企業ニーズ等に応じて計画的な機器整備を行っている。	A		●依頼試験利用企業の満足度（％） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>98</td><td>96</td><td>99</td><td>98</td><td>97</td><td></td></tr></table> ●顧客満足度調査結果(依頼試験等) <table><tr><td>満足</td><td>99(87%)</td></tr><tr><td>どちらかという満足</td><td>12(11%)</td></tr><tr><td>どちらでもない</td><td>3(3%)</td></tr><tr><td>どちらかという不満</td><td>0(0%)</td></tr><tr><td>不満</td><td>0(0%)</td></tr></table> 満足ではない理由（選択項目） ・もっと多くの事項に対応してほしい ・担当者の知識・技術を充実してほしい ●新規導入設備 ・マイクロフォーカス X 線 CT 装置（R6） ・デジタル式エックス線透過写真撮影システム（R5） ・高速液体クロマトグラフ（R5） ・複合サイクル試験機、強エネルギー型促進耐候性試験機（R4） ・デザイン・工芸関連の試作加工設備（R4） ・ガスクロマトグラフ分析装置（GC-FID）（R4） ・雷サージ試験器（R3） ・熱溶解積層法 3D プリンター（R3）		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	98	96	99	98	97		満足	99(87%)	どちらかという満足	12(11%)	どちらでもない	3(3%)	どちらかという不満	0(0%)	不満	0(0%)
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																														
目標	80	80	80	80	80	80																														
実績	98	96	99	98	97																															
満足	99(87%)																																			
どちらかという満足	12(11%)																																			
どちらでもない	3(3%)																																			
どちらかという不満	0(0%)																																			
不満	0(0%)																																			
(3) 設備機器貸出 設備機器貸出は、企業等が自前での整備が困難な機器等をセンターが保有し、利用の便宜を提供することにより、企業等のコストダウンや新製品開発のスピード向上等に大きく貢献する業務である。 このため、企業等のニーズに対応した設備機器の計画的な導入・保守・更新を図りながら、利用促進のための設備機器の P R や利用講習会等の開催に取り組む。 数値目標は、サービスの質を示す指標として設備機器貸出利用企業の満足度を設定する。 【数値目標】 機器貸出利用企業の満足度 80%	(3) 設備機器貸出 企業等ニーズに対応し、円滑な利用に向けた環境の整備に努めるとともに、利用促進のための設備機器の P R や利用講習会等の開催に取り組む。 【数値目標】 機器貸出利用企業の満足度 80% 【取組み項目】 ①設備機器貸出 ・研修等への職員派遣による対応能力の向上 ・支援人材(技術スタッフ)の充実や企業向け利用マニュアル等の整備、利用講習会等の開催 ・設備機器の計画的な導入・保守・更新の実施	(3)設備機器貸出 ■利用企業の満足度 98%（目標達成） ●設備機器貸出件数 2, 294 件【再掲】 【自己評価理由】 （2）に記載の取り組みのほか、新規導入設備のマニュアル整備、貸出機器の利用講習会の開催など、利用者の利便性向上に努めることで高い満足度を得ることができた。 また、公式 YouTube チャンネルや企業訪問による積極的な設備紹介など、機器利用件数を増やす試みを行っている。	A		●設備機器貸出利用企業の満足度（％） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>98</td><td>99</td><td>99</td><td>99</td><td>98</td><td></td></tr></table> ●顧客満足度調査結果(設備機器貸出) <table><tr><td>満足</td><td>126(90%)</td></tr><tr><td>どちらかという満足</td><td>11(8%)</td></tr><tr><td>どちらでもない</td><td>3(2%)</td></tr><tr><td>どちらかという不満</td><td>0(0%)</td></tr><tr><td>不満</td><td>0(0%)</td></tr></table> 満足ではない理由（選択項目） ・もっと多くの事項に対応してほしい ・担当者の知識・技術を充実してほしい ・もっと丁寧に説明してほしい		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	98	99	99	99	98		満足	126(90%)	どちらかという満足	11(8%)	どちらでもない	3(2%)	どちらかという不満	0(0%)	不満	0(0%)
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																														
目標	80	80	80	80	80	80																														
実績	98	99	99	99	98																															
満足	126(90%)																																			
どちらかという満足	11(8%)																																			
どちらでもない	3(2%)																																			
どちらかという不満	0(0%)																																			
不満	0(0%)																																			

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
					●新規導入設備等の利用講習会開催実績 ・マイクロフォーカス X 線 CT 装置利用講習会（既存装置関連） ・顕微赤外分光分析装置（F T - I R）による異物分析講習会 ・デジタルものづくりの基礎技術セミナー（CAE） ・X 線非破壊検査セミナー ・振動試験装置利用講習会 ・デジタル加工技術セミナーワイヤー放電加工 ・IIRI DESIGN LAB（De. i）「デザインラボ機器見学会～プリント・カット・マーキング～」

●R 6 年顧客満足度調査について

対象	・R 6 . 1 ～R 6 . 12 にセンターの技術相談、機器貸出、依頼試験の利用が 3 回以上の企業等 ・R 6 . 4 ～R 6 . 12 に共同研究、受託研究、研究開発型人材育成支援、研修生のいずれかを利用した企業等
調査数	475 社
調査期間	R 6 . 12. 20～R 7 . 3 . 17
回収数	288 社(回収率 61%)

3 戦略的な研究開発

中期目標	県政課題や地域課題の解決、企業等の新たな事業展開への支援、将来を見据えた技術シーズの創生などに向けて、人的・物的資源の選択と集中を図りながら、戦略的な研究開発を推進する。 また、研究成果の技術移転を進め、関係機関等と連携しながら事業化を推進する。
	(1) 県政課題等解決のための研究 「岩手県科学技術イノベーション指針」に示された次世代ものづくり分野や伝統産業高度化分野、加速器関連分野等に係る技術テーマについて、企業、大学、産業支援機関等と連携を図りながら研究開発を推進する。 研究開発に当たっては、県等からの研究の受託や外部資金の活用に積極的に取り組む。
	(2) 企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究 企業等の抱える課題を解決し、その技術力・競争力の強化を図るとともに、新たな事業展開を支援するため、共同研究等を積極的に実施する。 共同研究に当たっては、企業等に対し、外部資金の活用に向けた取組を支援する。
	(3) 技術シーズ創生のための研究 最新の技術動向等を踏まえ、将来の企業ニーズや県政課題等を見据えた技術シーズ創生のための研究に取り組む。
	(4) 研究成果の事業化支援 研究成果を積極的に産業界に発信して技術移転を進め、技術移転先企業等の新たな取組を支援する。 また、研究成果を早期に企業等の利益に結びつけるため、関係機関との連携により、製品化等の事業化を支援する。
	(5) 知的財産の創造・保護・活用 研究開発によって生まれた新技術等の知的財産について、企業支援や製品の高付加価値化に活用するために権利化を図るとともに、積極的に公開し、企業等での活用を促進する。

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																															
研究開発業務は、中小企業における研究開発を補完する役割を果たし、研究開発で得られた成果は、県内企業等への技術移転・普及を通じて中小企業の経営基盤の強化や付加価値向上に繋がり、県内産業の振興による県民所得の向上や雇用機会の拡大にも寄与するものである。 このような観点から、県政課題や地域課題の解決、企業等の新たな事業展開への支援、将来を見据えた技術シーズの創生などに向けて、人的・物的資源の選択と集中を図りながら、戦略的に研究開発を推進する。 また、研究マネジメント機能の強化に取り組むとともに、積極的に外部資金の獲得に努める。外部資金獲得に伴	○ 県政課題や地域課題の解決、企業等の新たな事業展開への支援、将来を見据えた技術シーズの創生などに向けて、人的・物的資源の選択と集中を図りながら、戦略的に研究開発を推進する。 ○ 積極的に外部資金の獲得に努めるとともに、資金獲得に伴う管理法人業務も受託する。 ○ 製品の差別化や開発の効率化を図るためにデザイン思考などを取り入れながら、研究開発の成果を速やかに事業化に繋げるための取組を積極的に推進する。 ○ 研究成果は、センターが発行する成果集や学会等での発表などにより県内外に広く発信する。 【数値目標】 - 研究テーマ数 50 件/年 - 外部資金採択件数 3 件/年 - 成果報告件数 90 件/年 (うち外部での報告件数 50 件)	■研究テーマ数 60 件 (目標達成) ■外部資金新規採択件数 4 件 (目標達成) ■成果報告件数 139 件 (目標達成) ■成果報告件数のうち外部での報告件数 68 件 (目標達成)	A		●研究テーマ数 (件) <table><tr><th></th><th>中期計画</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>目標</td><td>-</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td></tr><tr><td>実績</td><td>-</td><td>66</td><td>60</td><td>60</td><td>60</td><td></td></tr></table> ●外部資金採択件数 (新規) (件) <table><tr><th></th><th>中期計画</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>目標</td><td>15</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>実績</td><td>16</td><td>4</td><td>3</td><td>5</td><td>4</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ●成果報告件数の進捗状況 (件) <table><tr><th></th><th>中期計画</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>目標</td><td>450</td><td>90</td><td>90</td><td>90</td><td>90</td><td>90</td></tr><tr><td>実績</td><td>492</td><td>99</td><td>123</td><td>134</td><td>139</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの 内訳： - 誌上発表 9 件、 - 口頭発表・ポスター発表 97 件 - センター成果集 29 件 (口頭発表 8 件を含む) - センター研究報告 4 件		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	-	50	50	50	50	50	実績	-	66	60	60	60			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	15	3	3	3	3	3	実績	16	4	3	5	4			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	450	90	90	90	90	90	実績	492	99	123	134	139	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	-	50	50	50	50	50																																																														
実績	-	66	60	60	60																																																															
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	15	3	3	3	3	3																																																														
実績	16	4	3	5	4																																																															
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																														
目標	450	90	90	90	90	90																																																														
実績	492	99	123	134	139																																																															

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																						
う管理法人業務は、研究の中核を担う機関が受託することにより技術開発が効率的に進められ、共同研究企業に対する貢献度も高まることから、積極的に受託する。 業務推進に当たっては、市場における製品のライフサイクルの短縮化や均質化が一層進む中、製品の差別化や開発の効率化を図るためにデザイン思考などを取り入れながら、研究開発の成果を速やかに事業化に繋げるための取組を積極的に推進する。 研究成果は、センターが発行する成果集や学会等での発表などにより県内外に広く発信する。 数値目標は、外部資金獲得への取組を示す指標として外部資金採択件数を、研究開発成果を示す指標として成果報告件数を設定する。 【数値目標】 外部資金採択件数 5年間で 15 件 成果報告件数 5年間で 450 件（うち外部での報告件数 250 件）	【取組項目】 ①研究業務のマネジメント - 最新の技術動向や社会環境の変化等を踏まえて岩手県工業技術センター技術ロードマップ（以下「技術ロードマップ」という。）を定時改定 - 技術ロードマップに基づく戦略的な取組の実施 - 研究開発カルテの運用 - 研究計画等審査委員会による研究業務の最適化 - 研究倫理の徹底と研究資金の適正な管理 - 学会等での発表と原著論文掲載研究員数増加への取組 ②外部資金の獲得 - 外部資金の獲得に向けた情報収集力の強化 - 外部資金の採択向上に向けた研究開発支援体制の強化と職員の能力向上のための研修等の実施 - 大学や国及び他公設試験研究機関、企業等との連携の強化	【自己評価理由】 将来を見据えた技術シーズの創生のための可能性調査研究や技術相談などを基に、発展研究への展開、外部資金獲得、事業化支援と段階を踏んで研究を進めるほか、各研究テーマの実施に当たって、研究計画等審査委員会により緊急性・必要性や推進体制を判断するなど、研究マネジメントに努めた結果、目標の研究テーマ数、新規の外部資金獲得件数を達成することができた。 また、得られた成果は成果発表会や学会発表を通じて広く企業に展開している。 外部資金の採択向上のための職員研修を実施するとともに、研究時に不正が発生しないよう、毎年度職員向けの教育を実施している。			<table><tr><td colspan="7">●成果報告件数（外部）の進捗状況（件）</td></tr><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>250</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td></tr><tr><td>実績</td><td>287</td><td>58</td><td>77</td><td>85</td><td>68</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ●研究テーマの内訳（件） <table><tr><td>県政課題等解決のための研究</td><td>12</td></tr><tr><td>企業ニーズに対応した共同・受託研究</td><td>16</td></tr><tr><td>技術シーズ創生（可能性調査研究）</td><td>27</td></tr><tr><td>技術シーズ創生（発展研究）</td><td>5</td></tr><tr><td>計</td><td>60</td></tr></table> ②外部資金の獲得 外部資金新規採択内訳 ・公設試等連携可能性調査「デジタル式移送魚数自動カウント装置の開発」 養殖業者のデジタル化を進めるための研究。 岩手県内水面水産技術センターと共同で実施。 生け簀間の移送時に魚数を自動でカウントする装置。県内の養殖業者への移転を検討中。 ・J K A機械振興補助事業 公設工業試験研究所等が主体的に取組む共同研究「コールドスプレー法を利用した海洋生物付着防止表面処理技術の開発」 海洋生物の付着を防止する被膜の作製方法及び被膜作製装置の開発を行った。金属の表面処理技術が向上したことにより海洋生物の付着抑制の能力が向上された。 ・インテリジェント・コスモス奨励賞「自然界から分離した麹菌の実用化研究」 自然界から麹菌を抽出し、地域の特色を生かした酒造りへの応用を可能にした。商品化にも成功。 ・経済安全保障重要技術育成プログラム「高度な金属積層造形システム技術の開発・実証」 R6 年度より研究開始。金属積層造形の高度化に関する研究を実施。（3 年間）	●成果報告件数（外部）の進捗状況（件）								中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	250	50	50	50	50	50	実績	287	58	77	85	68		県政課題等解決のための研究	12	企業ニーズに対応した共同・受託研究	16	技術シーズ創生（可能性調査研究）	27	技術シーズ創生（発展研究）	5	計	60
●成果報告件数（外部）の進捗状況（件）																																											
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																					
目標	250	50	50	50	50	50																																					
実績	287	58	77	85	68																																						
県政課題等解決のための研究	12																																										
企業ニーズに対応した共同・受託研究	16																																										
技術シーズ創生（可能性調査研究）	27																																										
技術シーズ創生（発展研究）	5																																										
計	60																																										

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
(1) 県政課題等解決のための研究 「岩手県科学技術イノベーション指針」に示された次世代ものづくり分野、伝統産業高度化分野、農林水産業高度化分野、加速器関連分野、ライフサイエンス分野、環境・エネルギー分野に関する取組など、県政課題や地域課題に係る技術テーマについて、県からの受託等による研究を実施するとともに、県に対しセンターからも積極的に施策提案を行っていく。 また、研究内容に応じて、企業、大学、産業支援機関等と連携し、外部資金も活用しながら、産学官共同研究プロジェクトや農林水産分野等における他公設試験研究機関等との連携・協働による研究開発を推進する。	(1) 県政課題等解決のための研究 「岩手県科学技術イノベーション指針」に示された次世代ものづくり分野、伝統産業高度化分野、農林水産業高度化分野、加速器関連分野、ライフサイエンス分野、環境・エネルギー分野に関する取組など、県政課題や地域課題に係る技術テーマについて、県からの受託等による開発を実施するとともに、県に対しセンターからも積極的に施策提案を行っていく。 研究内容に応じて、企業、大学、産業支援機関等と連携し、外部資金も活用しながら、産学官共同研究プロジェクトや他公設試験研究機関等との連携・協働による研究開発を推進する。 【取組項目】 ①県等受託研究 ・県等からの研究の受託による研究開発の推進 【具体的な取組項目】 - i ものづくりDXシステム構築支援強化のための研究開発 - ii 放射光施設等利活用のための研究・支援 - iii i-SB法を活用したDX・GX支援 - iv 岩手県育成水稻系統の米粉利用適性に関する試験研究 ②産学官共同研究 ・産学官共同研究プロジェクトへの参画や他公設試験研究機関等との連携・協力による研究開発の推進 【具体的な取組項目】 - i 海洋生物付着防止表面処理技術に関する研究開発 - ii 分子接合技術を活用した異種材料の接合・剥離の技術開発	(1) 県政課題等解決のための研究 【自己評価理由】 県の重点課題であるデジタルトランスフォーメーション（DX）の企業への更なる展開とそれによる生産性向上を図るため、特記事項記載の4テーマの研究開発（県からの受託）を実施したほか、同受託研究事業を通じて企業におけるDX人材の育成、セミナー・講習会等を実施した。 また、産学官共同により、海洋生物付着防止膜の開発など2テーマについて、研究開発を行った。	A		●ものづくりDXシステム導入支援強化に係る研究開発テーマ 1. デジタルシボと組立型工法による縦長形南部鉄器の製作 2. ものづくり現場における作業進捗のリアルタイム把握システムの開発 3. 理美容鈿の品質評価計測システムの開発 4. 製造を意識したジェネレーティブデザインの活用事例～従来製法との融合～ ①県等受託研究 - i ものづくりDXシステム導入支援強化事業 研究事業（DXシステム構築実証化研究開発2件 モデル事例創出研究2件 高度デジタル人材育成事業6社7名 DXリアルハッカソン事業4社8名 講習会開催12件 ・高度デジタル人材育成事業：主にデジタル技術との関わりがあまりない企業に向けて実施。データの自動採取や社員全員での共有などが可能となり、生産へのデータ活用を新たに検討するようになった。 ・DXリアルハッカソン事業：ある程度デジタル技術について知識を持つ企業に向けて実施。デジタル技術を活用した自動化システムなどを自社で構築することが可能となった。 - ii 関係者向けのナノテラス見学会を開催。 - iii 開発・試作など8件の企業支援を実施。セミナー開催3件。 - iv 麺およびパンへの加工適正の評価を実施 R7以降も継続 ②産学官共同研究 - i 船舶や漁具・洋上設備用の、海洋生物付着防止膜及び成膜装置の開発 - ii モバイルプリンター用ローラゴムの接着・剥離技術の開発

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																																									
(2) 企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究 本県産業が成長発展していくためには、新製品開発や新技術開発、生産性、付加価値向上等に向けた取組を推進することにより、優れた独自製品や技術を有しながら戦略的な経営を展開することができる研究開発型・課題解決型企業を多く育成することが重要である。 このため、企業等の抱える課題を解決し、その技術力・競争力の強化を図るとともに、新たな事業展開を支援するため、共同研究を実施する企業を新規に開拓しながら、企業との共同研究等を積極的に推進する。 また、共同研究に当たっては、当センターのノウハウを生かし、企業等に対して外部資金の活用に向けた取組を支援する。 数値目標は、サービスの質を示す指標として共同研究企業の満足度を、研究開発型・課題解決型企業の育成に向けた取組を示す指標として新規共同研究企業数を設定する。 【数値目標】 共同研究企業の満足度 80% 新規共同研究企業数 5年間で 19社	(2) 企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究 企業の抱える課題を解決し、その技術力・競争力の強化を図るとともに、新たな事業展開を支援するため、共同研究等を積極的に推進する。 新たに共同研究を実施する企業の開拓に取り組む。 共同研究に当たっては、当センターのノウハウを生かし、企業等に対して外部資金の活用に向けた取組を支援する。 【数値目標】 - 共同研究企業の満足度 80% - 新規共同研究企業数 3 社/年 【取組項目】 ①共同研究・受託研究 - 企業等からの依頼によって行う共同研究等の実施	(2) 企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究 ■共同研究企業の満足度 94%（目標達成） ■新規共同研究企業数 4 社（目標達成） ●共同研究テーマ数 18 テーマ 【自己評価理由】 企業の抱える課題を解決するため、センターのシーズを活用し、酒、しょうゆなど醸造分野の新技術開発、食品の新商品開発、i-SB 法を活用した接合技術開発、ILC 参入のためのCAE 解析など様々な分野についての共同研究を実施し、課題解決や新たな事業展開を支援したことで、高い満足度が得られた。 また、企業訪問などセンターのPR活動を積極的に行ったことにより、新規共同研究企業数も目標を達成した。	A		●共同研究 センターのシーズを活用し、企業の特有課題をセンターと企業が共同で研究し解決する事業。 （主に1年以内。必要に応じ継続することも可能） ●顧客満足度調査結果（共同研究・受託研究） <table><tr><td>満足</td><td>15(88%)</td></tr><tr><td>どちらかという満足</td><td>1(6%)</td></tr><tr><td>どちらでもない</td><td>1(6%)</td></tr><tr><td>どちらかという不満</td><td>0(0%)</td></tr><tr><td>不満</td><td>0(0%)</td></tr></table> 満足ではない理由（選択項目） - もっと多くの事項に対応してほしい - 設備・機器をより充実してほしい - もっと迅速に対応してほしい - 機密保持・知財関係の調整がつかなかった ●共同研究企業数の満足度 (%) <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>95</td><td>91</td><td>100</td><td>94</td><td>94</td><td></td></tr></table> ●新規共同研究企業数の進捗状況 (件) <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>19</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>実績</td><td>16</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ●共同研究テーマ数 (件) <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>88</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td></td></tr><tr><td>実績</td><td>83</td><td>20</td><td>23</td><td>22</td><td>18</td><td></td></tr></table> 内訳 共同研究 16 件+ものづくり DX 事業の共同研究 2 件	満足	15(88%)	どちらかという満足	1(6%)	どちらでもない	1(6%)	どちらかという不満	0(0%)	不満	0(0%)		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	95	91	100	94	94			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	19	3	3	3	3		実績	16	6	3	3	4			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	88	17	17	17	17		実績	83	20	23	22	18	
満足	15(88%)																																																																													
どちらかという満足	1(6%)																																																																													
どちらでもない	1(6%)																																																																													
どちらかという不満	0(0%)																																																																													
不満	0(0%)																																																																													
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																																								
目標	80	80	80	80	80	80																																																																								
実績	95	91	100	94	94																																																																									
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																																								
目標	19	3	3	3	3																																																																									
実績	16	6	3	3	4																																																																									
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																																								
目標	88	17	17	17	17																																																																									
実績	83	20	23	22	18																																																																									
(3) 技術シーズ創生のための研究 センターが企業ニーズや県政課題等に的確に対応していくためには、国内外の技術動向等を踏まえながら、将来の企業ニーズや県政課題等を見据えた技術シーズ創生のための研究開発を実施する。 【数値目標】 成果が展開された研究テーマ数 10 件/年	(3) 技術シーズ創生のための研究 国内外の技術動向等を踏まえながら、将来の企業ニーズや県政課題等を見据えた技術シーズ創生のための研究開発を実施する。 【数値目標】 成果が展開された研究テーマ数 10 件/年	(3) 技術シーズ創生のための研究 ■成果が共同研究や発展研究など次のステップの研究に展開された研究テーマ数（成果展開研究テーマ） 20 件（目標達成）	A		●成果展開研究テーマ数の進捗状況 (件) <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>50</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>実績</td><td>73</td><td>15</td><td>24</td><td>14</td><td>20</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	50	10	10	10	10	10	実績	73	15	24	14	20																																																					
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																																								
目標	50	10	10	10	10	10																																																																								
実績	73	15	24	14	20																																																																									

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
いくことが重要である。 このため、新技術や市場ニーズに係る情報収集に努めながら、研究部門の自主性をより重視した自主財源による研究開発等に取り組む。 取組に当たっては、技術ロードマップにより研究開発の方向性と工程を確認しながら進める。 数値目標は、研究成果の活用状況を示す指標として成果が展開された研究テーマ数を設定する。 【数値目標】 成果が展開された研究テーマ数5年間で50件	【取組項目】 ①技術シーズ創生・発展研究 ・新技術や市場ニーズに係る情報収集に努めながら、次の2つのステージで実施 - i 可能性調査研究：可能性調査、シーズ育成のための研究 - ii 発展研究：これまでに創生したシーズの展開（技術移転を前提とした実用化、外部資金応募に向けた技術確立）のための研究 ②外部資金研究 ・新技術や市場ニーズに係る情報収集に努めながら、外部資金を活用し実施	【自己評価理由】 可能性調査研究（27テーマ）を含む過去の研究から、次のステップである発展研究・企業との共同研究・外部資金への研究など、合計20テーマに展開できたことから、目標を達成した。テーマ展開にあたり、研究開始前に研究計画等審査委員会による計画の精査を行い、適切な研究マネジメントを実施した。 また、可能性調査研究の更なる展開を目指し、R6年度より中間報告会を実施し、情報共有と研究内容に対する意見交換を職員間で実施した。			●成果展開研究テーマ 過去の研究から、共同研究・発展研究・外部資金研究等にステップアップした研究テーマ 1. AIを活用した工具摩耗診断システムの開発 2. 下水汚泥焼却灰をリチウムイオン二次電池の材料へリサイクルするための研究開発 3. PET 加水分解溶液を利用した電極材料の作製に関する研究 4. 理美容鋏の品質評価計測システムの開発 5. コールドスプレー法で形成する離型膜の高耐久化に関する研究 6. 小型コネクタ部品の試作 7. 防汚部材への適用化 8. Ti 部材の塗膜密着性向上の適用化 9. 半導体回路部材への適用化 10. ゴムと金属の接合 11. i-SB®法を活用した PPSU 樹脂へのコーティング技術の開発 12. コールドスプレー法を利用した海洋生物付着防止表面処理技術の開発 13. 高度な金属積層造形システム技術の開発・実証 14. 手動式和グルミ割器の製品化への取組み 15. 3D 治具を活用した木材 CNC 加工技術の開発 16. いわてまちの自然環境中から分離した酵母のビール醸造への実用化 17. 食品用木質チップの製造販売に必要な技術の構築 18. 食品用新規木質チップの製造技術の確立と特徴の評価 19. 岩手県育成水稻系統の米粉利用適性に関する試験 20. 西和賀産わらび粉の品質に影響する原料の調査

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																										
(4) 研究成果の事業化支援 研究成果を早期に企業等の利益に結びつけるため、研究開発の企画段階から事業化を見据えた取組を進める。研究成果は、成果発表、プレスリリース、展示会出展等により産業界に対して積極的に発信し、技術移転先企業等における事業化を支援する。 特に、研究成果や技術移転先支援企業等における取組について、プレスリリースを活用した情報発信を強化していく。 また、産業支援機関等と連携を図りながら、研究成果を活用した新技術の活用や新製品の販路開拓を積極的に支援する。 数値目標は、技術移転の活動指標として技術移転件数を設定する。 【数値目標】 技術移転件数 5年間で150件	(4) 研究成果の事業化支援 研究成果や技術シーズを積極的に産業界に発信し技術移転に取り組むとともに、技術移転先企業等における事業化を支援する。 産業支援機関等と連携を図りながら、研究成果の新技術への活用や新製品の販路開拓を積極的に支援する。 【数値目標】 ・技術移転件数 30 件/年 ・事業化支援件数 5 件/年 【取組項目】 ①技術移転 ・成果発表会や講習会、研究会等の開催 ・研究成果集や技術情報の発行、ホームページでの公開 ・プレスリリース、パブリシティ（報道として取り上げてもらうこと）等によるPR・周知 ・開放特許情報データベースへの登録 ・学会発表や外部機関が作成する研究成果事例集等での発表 ②研究成果の事業化支援 ・企業と連携した情報発信の実施 ・技術説明やユーザーニーズ把握のための研究員派遣などによる展示会出展への支援 ・産業支援機関の支援制度活用による販路開拓等や研究開発成果の改良支援 ・研究成果の市場化・製品化につなげる補完分析・試験・調査、パッケージデザイン等の支援	(4) 研究成果の事業化支援 ■技術移転件数 61 件（目標達成） ■事業化支援件数 5 件（目標達成） 【自己評価理由】 技術相談対応や人材育成を通じた試作支援・販売支援の実施により、技術移転件数は大幅に増加し、目標を達成した。 このほか、成果発表会や講習会の開催、技術情報誌への掲載などを通じ、センターの技術シーズのPRを積極的に行った。 また、企業が事業化に向けてさらに技術の開発を必要としている技術の研究開発や展示会の出展支援などの伴走支援を行い、事業化支援の目標件数を達成した。	A		①技術移転 技術相談、人材育成、共同研究を通じシーズの移転により製造技術の発展や商品化などに取り組んだ。 ●技術移転件数の進捗状況 （件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>150</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td></tr><tr><td>実績</td><td>179</td><td>41</td><td>42</td><td>35</td><td>61</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ●事業化支援件数の推移 （件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>－</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>実績</td><td>－</td><td>5</td><td>11</td><td>5</td><td>5</td><td></td></tr></table> ②事業化支援（5件）内容 1. 手動式和グルミ割器の製品化への取組み（硬度の高い和グルミを手動で割るための刃の開発） 2. 次世代 MID 製造技術に関する展示会および講演の実施（JPCA Show 2024 の3D-MID パビリオン出展） 3. 次世代 MID 製造技術に関する展示会および講演の実施（とうほく・北海道自動車関連技術展示商談会出展） 4. 岩手県産木質チップを利用した新商品の開発と販売促進（ifia 20 24 の出展） 5. エアチャックの展示会出展（とうほく・北海道自動車関連技術展示商談会出展）		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	150	30	30	30	30	30	実績	179	41	42	35	61			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	－	5	5	5	5	5	実績	－	5	11	5	5	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																									
目標	150	30	30	30	30	30																																									
実績	179	41	42	35	61																																										
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																									
目標	－	5	5	5	5	5																																									
実績	－	5	11	5	5																																										

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																					
(5) 知的財産の創造・保護・活用 研究開発によって生まれた新技術等の知的財産は、権利化に取り組むとともに、積極的に公開するなど、企業等での活用を図っていく。 企業等における知的財産の戦略的な活用を促進するため、共同研究企業との共同出願や、知的財産を活用した商品等の事業化支援、一般社団法人岩手県発明協会及び公益財団法人いわて産業振興センターと連携した知的財産に係るセミナー開催や知財相談等による企業支援に取り組む。 また、職員の能力向上のため、職員向けの研修を実施するとともに、特許出願等に対するインセンティブとして、実施料収入を研究費として還元する。 数値目標は、知的財産の創出活動指標として知的財産創出件数を設定する。 【数値目標】 知的財産創出件数 5年間で 40 件	(5) 知的財産の創造・保護・活用 研究開発成果を保護し県内企業での活用を促進するため、知的財産権の積極的な取得やノウハウとしての保護に取り組むとともに、企業等での活用を図るため積極的に公開する。 【数値目標】 ・知的財産創出件数 8 件/年 【取組項目】 ①知的財産の戦略的な活用促進 ・共同研究企業との共同出願や知的財産を活用した製品等の事業化支援 ②ノウハウの管理強化 ・特許化できないセンター独自技術の県内企業への普及促進 ③知財スキルの向上 ・センター職員向け研修プログラムの実施 ・外部機関と連携した企業向け知財セミナーの開催	(5) 知的財産の創造・保護・活用 ■知的財産創出件数 4 件（目標の 50%） 【自己評価理由】 シーズ創生・発展研究など、企業と共同で研究した成果の特許申請を行ったが、知的財産の創出件数は目標の 50%にとどまった。 知的財産創出拡大のため、INPIT 主催の講習会受講など職員のスキルアップや、発明協会主催の弁理士相談会参加など、取組を行っており、独自技術のノウハウ指定や著作物の知財としての管理など新しい取組も行いながら、知財創出件数の拡大を図っていく。	C		●知的財産創出件数の進捗状況 (件) <table><tr><th></th><th>中期計画</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><th>目標</th><td>40</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><th>実績</th><td>27</td><td>8</td><td>6</td><td>9</td><td>4</td><td></td></tr></table> ※中期計画では 5 年間の目標値としているもの 知的財産創出内訳 1. 家事・育児シェア普及啓発用ロゴマーク（著作物） 2. 発酵木質チップ及び液状飲食物、並びにその製造方法（特許） 3. 海洋生物付着防止処理の表面処理方法（ノウハウ） 4. 玄米粉を用いたアルカリ崩壊分析手法とその解析方法（ノウハウ） ※知的財産としてのノウハウ：特許や著作権にしない技術情報のうち、秘匿することが可能なものであって、かつ財産的価値のあるもの。特に企業や職場において、業務の効率化や競争力向上のために活用される重要な情報。		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	40	8	8	8	8	8	実績	27	8	6	9	4	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																				
目標	40	8	8	8	8	8																				
実績	27	8	6	9	4																					

4 ものづくり産業及び地場産業への支援

中期目標	本県産業の振興及び経済の発展に寄与するため、「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、県等と連携しながら企業等に対する技術支援を推進する。 (1) ものづくり産業への支援 国際競争力の高いものづくり産業の振興に向け、自動車・半導体等中核産業における協業や取引拡大の推進のほか、地域クラスター形成、医療機器などの新たな産業分野への参入促進、企業等のグローバル展開等に向けた技術支援を推進する。 また、企業等の生産性と付加価値の向上を図るため、I o Tや三次元デジタル技術等を活用した「ものづくり革新」技術に取り組む企業等への技術支援を推進する。 (2) 地場産業への支援 食産業、伝統工芸産業、漆産業などの商品力や生産性の向上に向けた技術支援を推進するほか、関係機関との連携により県内企業等の海外展開に資する技術支援を推進する。

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																					
本県産業の振興及び経済の発展に寄与するため、県が策定した「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、県等と連携しながら企業等に対する技術支援を推進する。 また、各種補助金や表彰、技能検定等に係る審査への職員の派遣など、県、市町村、産業支援機関等における産業支援業務に対して積極的に協力する。 数値目標は、センターの活動指標として共同研究件数を設定する。 【数値目標】 共同研究件数 5年間で88件	「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプラン（2023～2026）に基づき、県等と連携しながら企業等に対する技術支援を推進する。 各種補助金や表彰、技能検定等に係る審査への職員の派遣など、県、市町村、産業支援機関等における産業支援業務に対して積極的に協力する。 【数値目標】 ・共同研究件数17件/年	■共同研究テーマ数18テーマ【再掲】 ・目標達成 【自己評価理由】 企業訪問先の拡大、技術相談など企業の技術支援を積極的に進めたことなどにより、共同研究テーマ数の目標件数を達成した。 また、県や関係機関の要請に応じ、各種の補助金や表彰、技術検討等に係る職員の派遣など積極的に対応した。	A		●共同研究件数の進捗状況（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>88</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td></td></tr><tr><td>実績</td><td>83</td><td>20</td><td>23</td><td>22</td><td>18</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	88	17	17	17	17		実績	83	20	23	22	18	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																				
目標	88	17	17	17	17																					
実績	83	20	23	22	18																					
(1) ものづくり産業への支援 自動車・半導体等の本県中核産業への県内企業の参入や地域クラスター形成などによる国際競争力の高いものづくり産業の振興に向け、生産性や付加価値の向上、グローバル展開等に取り組む企業への技術支援を実施するとともに、共同研究等を推進する。 特に、ものづくりイノベーションセンターの運用によるIoT、三次元デジタル技術等を活用した「ものづくり革新」技術に取り組む企業への技術支援や製品の国際化規格への対応支援、ヘルステック・イノベーション・ハブの運営による	(1) ものづくり産業への支援 自動車・半導体等の本県中核産業への県内企業の参入や地域クラスター形成などによる国際競争力の高いものづくり産業の振興に向け、生産性や付加価値の向上、グローバル展開等に取り組む企業への技術支援を実施するとともに、共同研究等を推進する。 【取組項目】 ① 技術の高度化に関する支援 ・自動車・半導体産業分野の競争力強化に資する技術支援 ・ものづくりDXシステム導入支援強化事業による県内企業との共同研究	(1) ものづくり産業への支援 【自己評価理由】 ものづくりイノベーションセンター・EMC評価ラボの活用や、県が推進するDX導入支援事業を活用により、ものづくり革新に取り組む企業への技術支援を行った。 また、自動車・半導体・地域クラスターに係る県内産学官による協議会活動に参加し、参入及び取引拡大を目指す企業の取組(新技術新工法開発・人材育成・販路拡大等)を支援した。 KEKと県内企業との共同研究を実施するほか、ヘルスケア産業の集積拠点であるヘルステック・イノベーション・ハブの管理・	A		① 技術の高度化に関する支援 ・ものづくりDXシステム導入支援強化事業による、生産現場での効率的なデジタル技術活用のための支援として、伴走型人材育成支援の実施（6社）、セミナー、講習会の開催（12回）、DXリアルハッカソン※事業（4社）、先進的なモデル事例の創出として共同研究の実施（2件）、先進事例の創出（2件） ・次世代ものづくりラボ（3Dものづくりラボ・新素材ラボ・IoTラボ）を活用した県内企業との次世代ものづくり技術に関する共同研究や人材育成を実施 ・EMC評価ラボ（10m法対応電波暗室・多目的電波暗室・シールド室）による電子機器等の評価を支援																					

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																						
ヘルスケア関連産業の拠点形成に向けた取組への技術支援を積極的に実施する。	- 次世代ものづくりラボによる、３Ｄものづくり技術や電子機器等の設計・試作・評価への支援 - ＥＭＣ評価ラボによる、電子機器等の海外製品規格への対応に向けた支援 ② 新産業創出に向けた支援 - 加速器産業分野への参入を目指す企業への支援 - ヘルスケア関連産業の拠点形成に向けた技術支援 - 県内企業のＩｏＴ・ロボット分野への参入支援 - 県内企業の分子接合技術に対する取り組みの支援（県受託：i－ＳＢ法を活用したＤＸ・ＧＸ支援）	運営を行うなど新産業創出に向けた支援を行った。			●次世代ものづくりラボ利用実績（件） <table><tr><td>技術相談</td><td>320</td></tr><tr><td>機器貸出</td><td>292</td></tr><tr><td>依頼試験・依頼加工</td><td>14</td></tr><tr><td>ラボ見学</td><td>21</td></tr><tr><td>セミナー</td><td>19</td></tr></table> ●EMCラボ貸出実績（時間） <table><tr><td>3m法電波暗室</td><td>0(貸出中止)</td></tr><tr><td>大型電波暗室</td><td>429</td></tr><tr><td>多目的電波暗室</td><td>526</td></tr><tr><td>EMI シールド室</td><td>145</td></tr><tr><td>EMS シールド室</td><td>242</td></tr><tr><td>車載シールド室</td><td>112</td></tr></table> ② 新産業創出に向けた支援 - 高エネルギー加速器研究機構（KEK）と県内企業を交えた共同研究を実施し参入支援 - センター敷地内に整備した、ヘルスケア産業集積拠点となるヘルステック・イノベーション・ハブを管理・運営 - 県内企業のＩｏＴ・ロボット分野参入に向け、いわてロボット技術研究会の活動を支援 - 県受託事業を活用し、県内企業のi-SB法導入支援を実施。試作８件、講習会３件	技術相談	320	機器貸出	292	依頼試験・依頼加工	14	ラボ見学	21	セミナー	19	3m法電波暗室	0(貸出中止)	大型電波暗室	429	多目的電波暗室	526	EMI シールド室	145	EMS シールド室	242	車載シールド室	112
技術相談	320																										
機器貸出	292																										
依頼試験・依頼加工	14																										
ラボ見学	21																										
セミナー	19																										
3m法電波暗室	0(貸出中止)																										
大型電波暗室	429																										
多目的電波暗室	526																										
EMI シールド室	145																										
EMS シールド室	242																										
車載シールド室	112																										
(2) 地場産業への支援 食産業、伝統工芸産業、漆産業などの地場産業の持続的成長や海外展開に向けて、新商品開発やブランド化、生産性の向上等に取り組む企業への技術支援を実施するとともに、共同研究等を推進する。 特に、デザインラボの運用による付加価値の高い製品開発や、食品の安全・品質管理などに係る技術支援を積極的に実施する。	(2) 地場産業への支援 食産業、伝統工芸産業、漆産業などの地場産業の持続的成長や海外展開に向けて、新商品開発やブランド化、生産性の向上等に取り組む企業への技術支援を実施するとともに、共同研究等を推進する。 【取組項目】 ① 商品企画に対する支援 - マーケットの動向・ニーズに対する調査手法等に関する支援 - 海外市場向け新商品開発等への技術支援 - 商品開発支援ツール等を活用した技術支援 - 県等と連携した新商品開発等への技術支援	(2)地場産業への支援 【自己評価理由】 県が推進する地場産業に関する主要な施策に参画し、デザインラボを核とした商品開発への支援、県産木質チップやクラフトサケなど地域資源活用や海外展開への技術支援に積極的に取り組んだ。	A		① 商品企画に対する支援 - デザイン相談の日（月１回）を開催し、商品開発等への課題を抱える事業者へ個別対応した（16者）。 - 本県の塗師を対象に、インバウンド・海外展開への対応や商品開発をテーマとする技術講座２回を開催（県委託業務）。 ② 食産業に対する支援 - 県産木質チップを利用した新商品の開発（フレーバー付与）と販売促進を支援 - 県北部で栽培可能な大吟醸用酒米品種や吟ぎんが、ぎんおとめの後継品種を目標とした酒米の検討を実施。 - クラフトサケやビール用酵母の抽出と商品化支援																						

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
	② 食産業に対する支援 ・食品の安全・品質管理などに関する技術支援 ・食品の新商品開発や生産技術開発、生産性向上等に関する技術支援 ・次世代酒造好適米の育種選抜の推進 ・発酵技術による高付加価値な新商品開発の推進 ③ 伝統産業、漆産業に対する支援 ・デザインラボを核としたデザイン活用の普及啓発やユーザー体験を重視したデザイン思考に基づく商品開発支援 ・デジタル技術を活用した生産性向上に関する支援				③ 伝統産業、漆産業に対する支援 ・デザインラボの運営によるデザイン活用的高度化に向けた普及啓発を支援 ・デザインラボへのニーズ掘り起こしと支援メニュー活用を図る「まんずデザイン相談の日」を企画立案 ・技術シーズ創生・発展研究にて、NC加工機による木製品の量産化を支援

5 産業人材の育成

中期目標	企業等の研究開発力や製造技術・商品化手法等の技術力を高めるため、様々な問題解決に取り組むことができる産業人材の育成を図る。 (1) 企業人材の技術高度化支援 企業等からの技術者の受入れ、企業等への研究員の派遣、講習会等を積極的に実施し、高度技術人材や研究開発人材を育成する。 (2) 次代を担う産業人材の育成 デジタルトランスフォーメーションやデザイン思考など、時代の要請に応じた次世代のものづくりを担う技術者を育成するほか、県等と連携し、地場産業分野における後継者等を育成する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																														
企業等の研究開発力や製造技術・商品化手法等の技術力を高めるため、技術者の受入や研究員の派遣、講習会等の開催により、様々な課題解決に取り組むことができる産業人材を育成する。 数値目標は、サービスの質を示す指標として講習会参加者の満足度及び研究開発型人材育成制度利用企業の満足度を設定する。 【数値目標】 講習会参加者の満足度 80% 研究開発型人材育成制度利用企業の満足度 80%	企業等の製造技術や研究開発を担う人材を育成するため、技術的課題解決能力の向上に向けた支援や最新技術情報の提供等に取り組む。 時代の要請に応じた次世代のものづくりを担う技術者や地域産業分野の後継者育成に取り組む。 【数値目標】 - 講習会・研究会参加者の満足度 80% - 研究開発型人材育成利用企業の満足度 80%	■講習会・研究会参加者の満足度 95%（目標達成） ■研究開発型人材育成利用企業の満足度 94%（目標達成） 【自己評価理由】 企業のニーズや要望などを踏まえた講習会の開催や、相互に情報交換を行いながら実施する技術者の育成により、高い満足度が得られ目標値を達成した。	A		●講習会・研究会の満足度（%） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>95</td><td>95</td><td>98</td><td>92</td><td>95</td><td></td></tr></table> ●講習会・研究会参加者満足度 <table><tr><td>満足</td><td>363(60%)</td></tr><tr><td>どちらかという満足</td><td>209(35%)</td></tr><tr><td>どちらでもない</td><td>28(5%)</td></tr><tr><td>どちらかという不満</td><td>2(0.3%)</td></tr><tr><td>不満</td><td>0(0%)</td></tr></table> ●研究開発型人材育成企業の満足度（%） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>99</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>94</td><td></td></tr></table> ●顧客満足度調査結果(研究開発型人材育成) <table><tr><td>満足</td><td>14(77%)</td></tr><tr><td>どちらかという満足</td><td>3(17%)</td></tr><tr><td>どちらでもない</td><td>1(6%)</td></tr><tr><td>どちらかという不満</td><td>0(0%)</td></tr><tr><td>不満</td><td>0(0%)</td></tr></table> 満足ではない理由（選択項目） - もっと丁寧に説明してほしい - もっと料金を安くしてほしい		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	95	95	98	92	95		満足	363(60%)	どちらかという満足	209(35%)	どちらでもない	28(5%)	どちらかという不満	2(0.3%)	不満	0(0%)		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	80	80	80	80	80	80	実績	99	100	100	100	94		満足	14(77%)	どちらかという満足	3(17%)	どちらでもない	1(6%)	どちらかという不満	0(0%)	不満	0(0%)
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																													
目標	80	80	80	80	80	80																																																													
実績	95	95	98	92	95																																																														
満足	363(60%)																																																																		
どちらかという満足	209(35%)																																																																		
どちらでもない	28(5%)																																																																		
どちらかという不満	2(0.3%)																																																																		
不満	0(0%)																																																																		
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																													
目標	80	80	80	80	80	80																																																													
実績	99	100	100	100	94																																																														
満足	14(77%)																																																																		
どちらかという満足	3(17%)																																																																		
どちらでもない	1(6%)																																																																		
どちらかという不満	0(0%)																																																																		
不満	0(0%)																																																																		
(1) 企業人材の技術高度化支援 企業等の製造技術や研究開発を担う人材を育成するため、企業からの技術者の受入や企業への研究員の派遣により、分析能力やデータ活用能力、技術的課題解決能力の向上に向けた支援を行う。	(1) 企業人材の技術高度化支援 【数値目標】 講習会・研究会開催件数 30 件/年	(1) 企業人材の技術高度化支援 ■講習会・研究会開催件数 83 件（目標達成）	A		●講習会・研究会開催件数の進捗状況（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>－</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td></tr><tr><td>実績</td><td>－</td><td>72</td><td>60</td><td>63</td><td>83</td><td></td></tr></table>		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	－	30	30	30	30	30	実績	－	72	60	63	83																																										
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																													
目標	－	30	30	30	30	30																																																													
実績	－	72	60	63	83																																																														

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
また、最新の技術動向等の情報提供や研究開発成果の普及・移転に向け、企業等のニーズを的確に捉えた講習会を開催するとともに、研究会活動の運営を支援する。	【取組項目】 i 研究開発型人材育成 - 企業の技術課題解決を通じた研究開発型人材の育成を目的に技術者受入型の共同研究を実施 ii ものづくり AI 活用人材育成 - 県内ものづくり企業に対し、県コーディネーター、県産業技術短期大学校と連携してプログラミング教育等を行い、AI 活用が可能な人材育成を支援するとともに、AI による画像検査システムの実装化支援を実施 iii 研修生受入 - 企業技術者や大学生を対象に研究開発能力向上を目的とした研修生の受入 iv 講習会等開催 - 最新の技術動向等の情報提供や研究開発成果等の普及・移転、分析能力やデータ活用能力の向上に向けた技術講習会等の開催 - 企業等のニーズを的確に捉えた適時適切な企画を行うとともに、実施結果の検証を実施 - 参加者の満足度向上に向けた方策の検討・実施 v 研究会活動支援 - 研究会活動の活性化に向けた運営の支援 vi 講師等派遣 - 関係機関や団体、企業等が主催する研修への講師等派遣	【自己評価理由】 企業のニーズや要望などを踏まえ、最新の技術動向を伝達する講習会を積極的に開催するとともに、12 の研究会に対し職員の参加・運営資金の援助を行った結果、講習会・研究会開催件数の目標を達成した。 また、アンケートを参考にしたテーマ設定や、募集時点で提示するセミナーに関する情報を増やしたことで高い満足度を得られた。			講習会内訳 - 講習会開催件数 66 件、参加者数 現地 1023 名、オンライン 61 名 - 研究会開催件数 25 件、参加者数 574 名（内、センター主催講習会との同時開催 8 件 232 名） iv 講習会等開催 - 企業のニーズや最新の技術動向を考慮した講習会を 66 件開催した。 - 座学だけでなく、実習やメーカの展示なども行うことで、参加者の満足度も 95% と十分な成果が得られた。 v 研究会活動支援 ●研究会 - いわてロボット技術研究会 - いわて塗装技術研究会 - 岩手県接合技術研究会 - 岩手非鉄金属加工技術研究会 - いわてたたら研究会 - 岩手木工研究会 - 岩手漆工研究会 - 岩手県清酒技術研究会 - 岩手県果実酒研究会 - 岩手みそしょうゆ学びの会 - 岩手クラフトビールアソシエーション - 岩手食品加工研究会 vi 講師等派遣 - 産業団体、産業支援機関、教育機関、行政機関等からの要望に応じ随時派遣 ●職員派遣 講師派遣：24 回 29 名 審査員：37 回 51 名 技能検定検定員派遣：28 回 35 名

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																																					
(2) 次代を担う産業人材の育成 時代の要請に応じた次世代のものづくりを担う技術者を育成するため、企業からの技術者の受入や企業への研究員の派遣、講習会の開催等により、生産現場におけるデジタルデータ活用やデザイン思考による製品企画能力の向上に向けた支援を行う。 また、県等と連携して地場産業分野における後継者等育成に取り組むとともに、産業教育の一環として大学生等のインターンシップを受け入れる。	(2) 次代を担う産業人材の育成 【数値目標】 ・技術人材受入研修件数（研究開発型人材育成、研修生受入ほか）15 件/年 ・研究開発型人材育成利用企業の満足度 80％ 【取組項目】 i 次世代技術者の育成 ・ものづくりDXシステム導入支援強化事業による技術者の育成 ・いわて半導体関連産業集積促進協議会と連携した半導体技術人材の育成 ・デザイン思考により製品の企画ができる技術者の育成 ・県等と連携した伝統産業（漆）技術者の育成 ii インターンシップ受入 ・産業教育の一環として大学生等のインターンシップの受入	(2) 次代を担う産業人材の育成 ■技術人材受入研修件数（研究開発型人材育成、研修生受入）32 件（目標達成） ■研究開発型人材育成利用企業の満足度 94％（目標達成） 【自己評価理由】 各種受け入れ事業を活用して、社会人・学生を受け入れ、技術者の育成を行うことで目標件数を達成した。また、研究開発型人材育成については、研究員と研修受講者の間で相互に情報交換を行いながら実施することで高い満足度が得られた。インターンシップについては、全ての受入要望に応えた。	A		●技術人材受入件数の進捗状況（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>－</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td>実績</td><td>－</td><td>24</td><td>25</td><td>30</td><td>32</td><td></td></tr></table> ●研究開発型人材育成利用企業の満足度（％） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>－</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>実績</td><td>－</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>94</td><td></td></tr></table> 技術人材受入研修（32 件）内訳 ●研究開発型人材育成受入実績 <table><tr><td>企業数</td><td>8</td></tr><tr><td>テーマ数</td><td>8</td></tr><tr><td>人数</td><td>8</td></tr></table> ●研修生受入実績 <table><tr><td></td><td>企業等</td><td>学生</td></tr><tr><td>テーマ数</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>人数</td><td>6</td><td>4</td></tr></table> ●高度デジタル人材育成（伴走型技術支援） <table><tr><td>企業数</td><td>6</td></tr><tr><td>テーマ数</td><td>6</td></tr><tr><td>人数</td><td>6</td></tr></table> ●DXリアルハッカソン（ワークショップ） <table><tr><td>企業数</td><td>4</td></tr><tr><td>テーマ数</td><td>4</td></tr><tr><td>人数</td><td>8</td></tr></table> i 次世代技術者の育成 ・ものづくり DX システム導入支援強化事業 高度デジタル人材育成事業 6 社(6 名) DX リアルハッカソン事業 4 社(8 名) ・一関高専学生向け半導体プロセス基礎セミナーを実施（4 グループ 25 名）(4 件) ・本県の塗師を対象に、インバウンド対応や商品開発をテーマとする技術講座 2 回を開催（県委託業務）。(2 件)		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	－	15	15	15	15	15	実績	－	24	25	30	32			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	－	80	80	80	80	80	実績	－	100	100	100	94		企業数	8	テーマ数	8	人数	8		企業等	学生	テーマ数	4	3	人数	6	4	企業数	6	テーマ数	6	人数	6	企業数	4	テーマ数	4	人数	8
	中期計画	R3			R4	R5	R6	R7																																																																		
目標	－	15			15	15	15	15																																																																		
実績	－	24	25	30	32																																																																					
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																																																				
目標	－	80	80	80	80	80																																																																				
実績	－	100	100	100	94																																																																					
企業数	8																																																																									
テーマ数	8																																																																									
人数	8																																																																									
	企業等	学生																																																																								
テーマ数	4	3																																																																								
人数	6	4																																																																								
企業数	6																																																																									
テーマ数	6																																																																									
人数	6																																																																									
企業数	4																																																																									
テーマ数	4																																																																									
人数	8																																																																									

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																		
					ii インターンシップの受入 ・依頼のあったインターンシップを全て受入 ●インターンシップ受入の内訳 <table><tr><th>所属</th><th>校数</th><th>人数</th></tr><tr><td>大学・大学院</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>産技短大</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>高校</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>中学</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>4</td><td>6</td></tr></table>	所属	校数	人数	大学・大学院	2	2	産技短大	1	2	高校	1	2	中学	0	0	計	4	6
所属	校数	人数																					
大学・大学院	2	2																					
産技短大	1	2																					
高校	1	2																					
中学	0	0																					
計	4	6																					

6 連携・協働の推進

中期目標	多様化・複合化する企業ニーズ等への対応、技術分野の横断的な連携による支援や研究開発を推進するほか、外部資金の活用に向け、県内外の試験研究機関や大学、産業支援機関等の関係機関との連携・協働を強化する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																										
多様化・複合化する企業ニーズ等への対応、技術分野の横断的な連携による支援や研究開発の推進のほか、外部資金の活用に向け、センター内に設置した連携推進組織の一層の活用を図りながら、県内外の試験研究機関や大学、公益財団法人いわて産業振興センターを始めとした産業支援機関等との連携・協働を強化する。 数値目標は、活動の成果を示す指標として県内外機関との新規連携取組件数、外部資金採択件数を設定する。 【数値目標】 県内外機関との新規連携取組件数 5年間で 15 件 外部資金採択件数 5年間で 15 件 【再掲】	多様化・複合化する企業ニーズ等への対応、技術分野の横断的な連携による支援や研究開発を推進するため、連携推進室が核となり、オープンイノベーションに取り組みながら、県内外の試験研究機関や大学、公益財団法人いわて産業振興センターを始めとした産業支援機関等との連携・協働を強化する。 【数値目標】 県内外機関との新規連携取組件数 3 件/年 外部資金採択件数 3 件/年 【再掲】 【取組項目】 ① 関係機関との連携交流 ・連携推進室によるコーディネート ・オープンイノベーションに向けた県内外の研究機関、産業支援機関、大学等との連携交流、協働の推進 ② 全国の公設試験研究機関との連携交流 ・産業技術連携推進会議を通じた情報・研究交流の推進 ・公立鉾工業試験研究機関長協議会を通じた情報交流の推進 ・地方独立行政法人公設試験研究機関情報連絡会を通じた情報交流の推進 ③ 東北の公設試験研究機関との連携交流 ・産業技術連携推進会議東北地域部会を通じた情報・研究交流の推進 ・北東北及び中東北の公設試技術連携推進会議を通じた情報・研究交流の推進 ④ 産学官金の連携及び企業間連携の推進 ・外部資金獲得に向けた産学連携、次世代プロジェクト形成に向けた取組推進	■ 県内外機関との新規連携取組件数 3 件（目標達成） ■ 外部資金新規採択件数 4 件【再掲】（目標達成） 【自己評価理由】 連携推進室を中心に県内外の関係機関との連携交流を推進し、数値目標を達成した。 県内の他の公設試や岩手大の iSB、北東北連携、中東北連携、産技連などを通じた他機関との連携を行うとともに、外部資金活用に向けた職員向け研修会を開催するなど、外部資金獲得に努めた結果、目標を達成した。	A		●新規連携取組件数の進捗状況（件） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>15</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>実績</td><td>12</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ●外部資金採択件数の進捗状況（件）【再掲】 <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>15</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>実績</td><td>16</td><td>4</td><td>3</td><td>5</td><td>4</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ① 関係機関との連携交流 ・信用保証協会との連携強化 ・県外大学等との大型連携プロジェクト 1 件（内閣府）地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 ・九州大・京都精華大との共同研究 1 件 ② 全国公設試との連携交流 ・産業技術連携推進会議（全国及び東北地域部会）の総会・分科会・研究会等に参加（7 回） ・地方独立行政法人公設試験研究機関情報連絡会へ参加し（1 回） ・公立鉾工業試験研究機関長協議会参加（1 回） ③ 東北公設試との連携交流 ・産技連東北地域部会に参加 ・北東北公設試技術連携推進会議参加（3 回） ・北東北 3 県共同研究等 3 テーマ推進 1. 食品の機能と開発 2. ロボット技術分野 3. 「AI」をキーワードとした情報共有の場 ・中東北 3 県公設試技術連携推進会議参加（3 回） ・中東北 3 県共同研究等 3 グループ推進 1. 金属グループ 2. 精密加工グループ 3. 食品分野グループ		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	15	3	3	3	3	3	実績	12	3	3	3	3			中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	15	3	3	3	3	3	実績	16	4	3	5	4	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																									
目標	15	3	3	3	3	3																																									
実績	12	3	3	3	3																																										
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																																									
目標	15	3	3	3	3	3																																									
実績	16	4	3	5	4																																										

					④産学官金の連携及び企業間連携の推進 ・信用保証協会との連携（支援内容の説明会） ・リエゾン I 助成金に関する打ち合わせ実施
--	--	--	--	--	--

7 情報発信の推進

中期目標	県内企業の技術開発、生産活動等を支援するため、センターの技術的知見や最新の技術情報等について、インターネットや刊行物等の各種広報媒体を活用するほか、講習会やセミナー、成果発表会等の開催を通じて、積極的かつ効果的に情報発信する。 また、見学受入れや一般公開の実施などにより、ものづくりや技術開発の重要性に対する県民の理解向上に努める。
------	--

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																					
県内企業の技術開発や生産活動を支援するとともに、センターの利用促進を図るため、保有設備機器や支援メニュー、研究開発成果等について、ホームページや刊行物等の各種広報媒体の活用のほか、講習会やセミナー、成果発表会等の開催を通じて、積極的かつ効果的に情報発信する。取組に当たっては、メールマガジンの発行やSNSの活用等インターネットを利用した情報発信に取り組むとともに、研究成果や技術移転先支援企業等における取組についてのプレスリリースを活用した情報発信を強化していく。 また、見学受入れや一般公開の実施などにより、ものづくりや技術開発の重要性に対する県民の理解向上に努める。 数値目標は、認知度の向上を示す指標としてホームページアクセス数を設定する。 【数値目標】 ○ホームページアクセス数 5年間で224,000回	県内企業の技術開発や生産活動を支援するとともに、センターの利用を促進するため、保有設備機器や支援メニュー、研究開発成果等について、ホームページや刊行物等の各種広報媒体の活用のほか、講習会やセミナー、成果発表会等の開催を通じて、積極的かつ効果的に情報発信する。 見学受入れや一般公開の実施などにより、ものづくりや技術開発の重要性に対する県民の理解向上に努める。 【数値目標】 ホームページアクセス数 46,000回/年 【取組項目】 ① 広報資料・刊行物の発行(各1回発行) ・技術情報：事業、組織、導入設備、その他のトピックス ・最新成果集：研究等の成果報告概要版 ・業務年報：年度実績を整理収録 ・研究報告：研究等の成果報告 ② プレスリリースの実施 ・報道機関へのプレスリリースを行うとともに、パブリシティ（報道として取り上げてもらうこと）によりセンターの情報を広く発信 ③ 公開行事の開催 ・成果発表会：研究成果等の発信（企業・関係機関向け、春期） ・一般公開：技術開発やものづくりに対する理解向上（一般県民向け、秋期）	■ホームページアクセス数 53,382回（目標達成） 【自己評価理由】 センターホームページを随時更新し、設備機器・支援メニュー・研究成果の紹介のほか、講習会やセミナー、一般公開開催などの情報発信を積極的に行った。 また、デザインラボの Facebook (SNS) や Youtube を活用し、よりタイムリーな情報提供を行った。	A		●ホームページアクセス数の進捗状況（千回） <table><tr><td></td><td>中期計画</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>R7</td></tr><tr><td>目標</td><td>224</td><td>43</td><td>43</td><td>45</td><td>46</td><td>46</td></tr><tr><td>実績</td><td>205</td><td>48</td><td>50</td><td>54</td><td>53</td><td></td></tr></table> ※中期計画では5年間の目標値としているもの ①広報資料の発行 ・技術情報 5月 7,000部発行 ・最新成果集 6月発行、業務年報 8月発行、研究報告 3月発行 ②プレスリリースの実施 ・プレスリリース実施件数 18件 ・新聞掲載・テレビ放映 33件 ③公開行事の開催 ・成果発表会 6/13～14開催、会場参加者延べ76名、オンライン参加者延べ46名 ・一般公開 10月5日、来場者 1,295名 ④広報活動の推進 ・県内展示会出展 ・見学件数 25件 774名 ・ホームページへの新着情報掲載 144件（センタートップページ 37件、デザインラボ（Facebook・Youtube含む）107件） ・公式YouTubeチャンネル		中期計画	R3	R4	R5	R6	R7	目標	224	43	43	45	46	46	実績	205	48	50	54	53	
	中期計画	R3	R4	R5	R6	R7																				
目標	224	43	43	45	46	46																				
実績	205	48	50	54	53																					

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
	④ 広報活動の推進 ・外部機関が実施する展示会等イベントへの出展 ・センター見学の随時受入 ・ホームページによる関連情報の随時発信、設備紹介等の動画コンテンツの公開 ・メールマガジンの発行、SNSの実施				

8 主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）					
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（千円）	1,064,099	1,030,048	1,071,489	1,033,073	984,906
決算額（千円）	1,039,219	1,158,780	1,081,904	989,136	1,048,606
従業員数	63	63	63	63	63

※決算額は支出額であること

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標	多様化・複合化する企業等のニーズや喫緊の技術的課題への迅速な対応など、企業満足度を重視した法人運営のため、地方独立行政法人のメリットを生かしたセンターの主体的、自主的な判断によって、機動性の高い、柔軟な組織と効率的な業務運営体制を構築する。
中期計画	多様化・複合化する企業等のニーズや喫緊の技術的課題への迅速な対応、顧客満足度を重視した法人運営に取り組むため、理事長のリーダーシップの下、センターの主体的、自主的な判断による機動性の高い、柔軟な組織と効率的な業務運営体制を確保する。

1 組織運営の改善

中期目標	内部統制システムに基づき、役職員が一体となった運営体制と理事長のリーダーシップによる迅速な意思決定により効率的な業務運営を行う。 組織・体制については、これを不断に検証し、社会経済状況や顧客ニーズなど、センターを取り巻く環境の変化に柔軟に対応する。 また、企業等による新たな事業展開を支持するため、多分野に渡る技術課題にも対応できるよう、組織横断的な取組を強化する。 研究開発の推進に当たっては、技術支援業務と研究開発業務のバランスを取りながら、効果的な研究推進体制を構築する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
組織運営に当たっては、理事長のリーダーシップの下、役職員が一体となってセンターの基本理念の共有化と基本方針の徹底を図るとともに、関係法令等を遵守し、内部統制の確立に努めながら、その改善を不断に行う。 センター経営を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、より適切な経営資源の配分を行うために、企業ニーズの把握や利用者の満足度、外部有識者の評価結果等を踏まえ、戦略的な組織の再編、業務の見直しに取り組む。 また、生産性向上や高付加価値化などに取り組む企業を支援するため、センター内部の組織横断的な取組体制の強化や技術支援業務と研究開発業務のバランスの取れた推進体制を構築する。	【取組項目】 ○組織運営の改善 ・内部統制の確立 ・センターの基本理念の共有化、基本方針の徹底 ・業務の質の向上と業務運営の改善及び効率化の観点に立った組織運営改善の不断な推進 ・外部評価の実施と改善事項等の組織運営への反映 ・県に準じた管理者マネジメント支援プログラムの実施 ○組織体制の見直し ・現組織体制の検証 ・令和7年度以降の組織体制の検討 ○組織横断的な支援体制の強化 ・組織横断的な取組体制の強化 ・技術支援業務と研究開発業務のバランスの取れた推進体制の構築 ・DX推進特命部を中心とする部間連携によるDX化の推進	・毎月、内部統制推進委員会を開催して、コンプライアンス訓示を行うなど、内部統制の強化を進めた。 ・業務の質の向上等を目的に職員全体研修を4回開催した。 ・管理者マネジメント支援プログラムを実施し、管理者のマネジメントの改善に反映させた。 ・理事長と職員との懇談、職員満足度アンケートで出された意見等について、対応内容を周知した。 ・DX推進特命部と各部の連携により、デジタル化・DX推進に係る技術の普及、試験研究、人材育成等に取り組んだ。 【自己評価理由】 ・内部統制推進委員会の定期開催、コンプライアンス訓示の実施など、内部統制の強化に努めた。 ・業務の質の向上等を目的とする研修を企画・実施し、職員の意識の向上に努めた。	A		職員全体研修（令和6年度） ①交通安全に係る動画視聴（自席研修） 7/29～8/9 ②働き方改革に関する研修 10/21 ③産業振興に係る研修（佐々木副知事） 11/8 ④メンタルヘルス・安全保障貿易管理に係る研修 2/3

		・県内製造業のD X化の推進という課題に的確に取り組むため、D X推進特命部と各部の連携により、県内製造業の支援に努めた。			
--	--	---	--	--	--

2 効果的・効率的な事務処理

中期目標 事務処理を効果的、効率的に行うため、管理業務を始め全ての事務を不断に検証する。

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																			
あらゆる事務処理について例外を設けることなく検証を行い、主要な管理業務については業務プロセスの「見える化」を進め、職員の共通理解を浸透させるとともに、業務等改善提案制度なども活用して、事務処理の一層の効率化を推進する。 また、総務管理事務部門においては、業務経験の豊富な県OBなどの人材を引き続き活用するほか、弁護士・税理士など高度な専門知識を有する外部人材を積極的に活用する。	【取組項目】 ・主要な管理業務における業務プロセスの「見える化」による共通理解の推進 ・業務等改善推進チームを中心とした業務等改善活動の推進 ・電子決裁・文書管理システムの導入 ・ペーパーレス会議の導入 ・事務処理の効率化に向けた検討の計画的実施 ・超過勤務縮減に向けた取組の継続実施 ・適正な事務処理に向けた県OB人材の活用 ・専門人材（弁護士、税理士等）の活用 ・センターOB人材によるアドバイザー制度の運用	・年度末に係る会計事務処理等の手続を周知した。 ・業務等改善推進チームの活動により、職員から実際に行っている改善事例等を募集したところ、18事例の応募があり、日常の業務に役立てるため職員に周知した。 ・事務分担の随時見直しの実施 ・電子決裁・文書管理システムを4月から試行、10月から本格実施し、文書決裁の効率化、ペーパーレス化を推進した。 ・安全衛生委員会及び環境管理委員会をペーパーレスにより開催。 ・物品等購入事務の効率化を図るため、納入業者が提出する会計書類への押印省略を可とする取扱いを検討（R7.4開始）。 ・超過勤務縮減のため、各部長の事前命令・事後確認を徹底するなどの取組を継続し、職員1人当たりの月平均超過勤務時間は5.0時間と前年度より0.9時間減少した。 ・外部人材の活用として、弁護士との顧問契約の締結や税理士への消費税申告、年末調整業務等の委託を実施。 ・事務処理の適正化に向けて県OB職員2名を継続して採用。 ・センターOB人材が業務を通じて培った豊富な専門知識や経験をセンター業務に活かすため企業支援アドバイザー7名を委嘱した。 【自己評価理由】 ・事務分担の随時見直しや事前命令・事後確認の徹底等に努めた結果、超過勤務時間は前年度より減少し、縮減を図ることができた。 ・業務等改善推進チームの取組により、職員から応募のあった実際の改善事例を紹介し、日常業務の改善につなげた。 ・電子決裁の導入を行い、文書決裁の効率化、センター内のデジタル化を進めた。	A		【業務等改善活動の内容】 ○ 改善事例の募集 主な事例 ① 生菌数を自動カウントするシステムの開発、② 工具の選定と迷子防止対策、③ USBメモリの指迷いをゼロに！、④ 装置説明動画の多様化、⑤ 金属3Dプリンタ・メンテナンス治具作成 等 ※全18事例の応募があった。																																																			
					超過勤務の状況(単位:時間、%) <table><tr><th>部 名</th><th>R6実績</th><th>R5実績</th><th>対R5比</th></tr><tr><td>総務部</td><td>741</td><td>958</td><td>77.3</td></tr><tr><td>企画支援部</td><td>207</td><td>166</td><td>124.7</td></tr><tr><td>連携推進室</td><td>57</td><td>28</td><td>203.6</td></tr><tr><td>電子情報システム部</td><td>284</td><td>232</td><td>122.4</td></tr><tr><td>機能材料技術部</td><td>186</td><td>331</td><td>56.2</td></tr><tr><td>素形材プロセス技術部</td><td>244</td><td>352</td><td>69.3</td></tr><tr><td>DX推進特命部</td><td>185</td><td>141</td><td>131.2</td></tr><tr><td>産業デザイン部</td><td>184</td><td>202</td><td>91.1</td></tr><tr><td>醸造技術部</td><td>450</td><td>474</td><td>94.9</td></tr><tr><td>食品技術部</td><td>424</td><td>606</td><td>70.0</td></tr><tr><td>計:A</td><td>2,962</td><td>3,490</td><td>84.9</td></tr><tr><td>対象職員:B</td><td>49人</td><td>49人</td><td>100.0</td></tr><tr><td>職員1人当たり月平均時間:A/B/12</td><td>5.0</td><td>5.9</td><td>84.7</td></tr></table>	部 名	R6実績	R5実績	対R5比	総務部	741	958	77.3	企画支援部	207	166	124.7	連携推進室	57	28	203.6	電子情報システム部	284	232	122.4	機能材料技術部	186	331	56.2	素形材プロセス技術部	244	352	69.3	DX推進特命部	185	141	131.2	産業デザイン部	184	202	91.1	醸造技術部	450	474	94.9	食品技術部	424	606	70.0	計:A	2,962	3,490	84.9	対象職員:B	49人	49人
部 名	R6実績	R5実績	対R5比																																																					
総務部	741	958	77.3																																																					
企画支援部	207	166	124.7																																																					
連携推進室	57	28	203.6																																																					
電子情報システム部	284	232	122.4																																																					
機能材料技術部	186	331	56.2																																																					
素形材プロセス技術部	244	352	69.3																																																					
DX推進特命部	185	141	131.2																																																					
産業デザイン部	184	202	91.1																																																					
醸造技術部	450	474	94.9																																																					
食品技術部	424	606	70.0																																																					
計:A	2,962	3,490	84.9																																																					
対象職員:B	49人	49人	100.0																																																					
職員1人当たり月平均時間:A/B/12	5.0	5.9	84.7																																																					

3 職員の意欲向上と能力開発

中期目標	職員の勤労意欲の向上を図るため、客観的な基準に基づく人事評価を実施し、その結果を処遇及び人員配置に反映させる。 また、戦略的な研究開発に必要な技術力や知識の向上を図るため、職員の能力開発研修を実施するほか、積極的に外部研修等へ派遣する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																								
県に準じた評価基準に基づく人事評価制度や職員等表彰制度などの運用のほか、センターの運営や業務に対する職員満足度アンケートの活用等により、職員の勤労意欲の一層の向上を図る。 人材育成ビジョンに基づき、職員の自発的な研修や専門研修、県が実施する職員研修への派遣など多様な研修機会の確保に努め、職員の能力開発と業務遂行能力の向上に取り組む。	【取組項目】 ○人事評価制度 ・県に準じた評価基準に基づく人事評価制度の運用(昇給、勤勉手当) ○職員等表彰制度 ・永年勤続者表彰：(県が実施) ・業績顕著者表彰：(〃) ・理事長表彰：2回 ○職員満足度アンケート ・調査実施：1回 ○研修機会の確保 ・中小企業大学校研修派遣 ・公募型職員研修派遣 ・東北自治研修所等が開催する研修への派遣 ・県が実施する職員研修への派遣	○人事評価制度の実施 ・県の定める「人事評価制度実施要領」に準じて継続実施。 ○職員等表彰制度 ・研究業務や管理業務を通じ高い評価の事績を挙げた職員等に対し、理事長より表彰。 ・外部機関による表彰は、5件が授与された。 ○職員満足度アンケート ・9月に実施(H29年度以降、毎年実施) ・全19の設問に対して満足していることを示す「そう思う」及び「ややそう思う」と回答した職員の割合は77.4%で、前年度の79.5%から若干低下した。 ・同アンケートの自由意見への対応内容を周知。【再掲】 ○理事長と職員との懇談 ・理事長と職員が懇談する場を設け、職員が業務運営等に対する意見を話す機会となった。出された意見等については、対応内容を周知。【再掲】 ○研修機会の確保 ・公設試職員としての能力向上や企業支援に係る業務遂行能力向上のため、中小企業大学校東京校の研修に4名派遣。 ・職員自身の希望に基づく公募型職員研修として、所内公募により15名受講。 【自己評価理由】 ・理事長表彰を実施するとともに、職員満足度アンケート、理事長と職員との懇談により職員の意見を聴く仕組みを構築し、職員の業務に対する意識の高揚を図ることができた。 ・中小企業大学校研修への派遣により、職員の中小企業支援スキルの向上に取り組んだ。 ・公募型職員研修の取組は、職場の自己啓発機運の醸成と職員のモチベーション向上に役立っている。	A		【職員表彰概要】 ○理事長表彰 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>大賞</td><td>3名(3個人)</td><td>4名(1グループ、1個人)</td></tr><tr><td>表彰</td><td>54名(11グループ、8個人)</td><td>55名(10グループ、8個人)</td></tr><tr><td>感謝状</td><td>1名(1個人)</td><td>—</td></tr></table> 【外部機関による表彰】 <table><tr><th>表彰区分</th><th>業 績</th></tr><tr><td>科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(技術部門)</td><td>5軸マシニングセンタを用いた切削により高精度の鋳造用砂型を作製する技術を開発した功績</td></tr><tr><td>インテリジェント・コスモス奨励賞</td><td>自然界から分離した麹菌を実用化に結び付けた功績</td></tr><tr><td>公益社団法人日本鋳造工学会功労賞</td><td>長年にわたり学会の運営に尽力し、その発展に多大なる貢献をした功績</td></tr><tr><td>伝統的工芸品産業功労者等表彰東北経済産業局長表彰 功労賞</td><td>南部鉄器業界の活性化・発展に多大なる貢献をした功績</td></tr><tr><td>全国食品関係試験研究場所長会優良研究・指導業績表彰</td><td>県産ブドウを用いたワインの商品化、ワイナリーの起業化支援等の取組により県内ワイン振興に貢献した功績</td></tr></table>		R5	R6	大賞	3名(3個人)	4名(1グループ、1個人)	表彰	54名(11グループ、8個人)	55名(10グループ、8個人)	感謝状	1名(1個人)	—	表彰区分	業 績	科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(技術部門)	5軸マシニングセンタを用いた切削により高精度の鋳造用砂型を作製する技術を開発した功績	インテリジェント・コスモス奨励賞	自然界から分離した麹菌を実用化に結び付けた功績	公益社団法人日本鋳造工学会功労賞	長年にわたり学会の運営に尽力し、その発展に多大なる貢献をした功績	伝統的工芸品産業功労者等表彰東北経済産業局長表彰 功労賞	南部鉄器業界の活性化・発展に多大なる貢献をした功績	全国食品関係試験研究場所長会優良研究・指導業績表彰	県産ブドウを用いたワインの商品化、ワイナリーの起業化支援等の取組により県内ワイン振興に貢献した功績
	R5	R6																											
大賞	3名(3個人)	4名(1グループ、1個人)																											
表彰	54名(11グループ、8個人)	55名(10グループ、8個人)																											
感謝状	1名(1個人)	—																											
表彰区分	業 績																												
科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(技術部門)	5軸マシニングセンタを用いた切削により高精度の鋳造用砂型を作製する技術を開発した功績																												
インテリジェント・コスモス奨励賞	自然界から分離した麹菌を実用化に結び付けた功績																												
公益社団法人日本鋳造工学会功労賞	長年にわたり学会の運営に尽力し、その発展に多大なる貢献をした功績																												
伝統的工芸品産業功労者等表彰東北経済産業局長表彰 功労賞	南部鉄器業界の活性化・発展に多大なる貢献をした功績																												
全国食品関係試験研究場所長会優良研究・指導業績表彰	県産ブドウを用いたワインの商品化、ワイナリーの起業化支援等の取組により県内ワイン振興に貢献した功績																												

4 環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実

中期目標	業務運営に伴う環境負荷の低減や不慮の事故、労働災害の未然防止に取り組む。 また、職員の健康の増進や仕事と生活の両立、子育ての支援など、職員が快適な環境で就労できる職場環境の整備に取り組む。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																																																																												
環境マネジメントのために自主運用するエコマネジメントシステムに基づき、引き続き、業務における環境負荷の低減に取り組む。 安全衛生マネジメントについては、安全衛生委員会を中心とした安全衛生管理体制の下、職場の安全管理及び職員の健康管理に係る取組を積極的に推進する。 また、働き方改革や女性活躍の推進、子育て支援の充実など、変化する社会的なニーズを踏まえ、職員が快適な環境で就労できる職場環境の一層の整備・拡充に取り組む。	【取組項目】 ○環境マネジメント ・エコマネジメントシステムに基づく取組の実施(エコラボ活動及び環境目標の設定) ○安全衛生マネジメント ・安全衛生委員会：毎月開催 ・職員研修：年2回開催 ・法定資格等研修派遣：所要数調査の上実施 ○職場環境の整備 ・「いわて女性活躍企業等(ステップ2)」認定継続 ・「次世代育成支援及び女性活躍推進のための一般事業主行動計画」に基づく取組の推進 ・ワーク・ライフ・バランスシート及び育児支援計画シートを活用した仕事と生活の両立(調和)支援 ・託児ルーム(兼女性休養室)の継続設置	○環境マネジメント ・電力使用量、重油使用量、プロパンガス使用量、水道使用量、産業廃棄物排出量とも管理指標を下回り、目標を達成した。 ・主な産業廃棄物の排出を3回実施 ○安全衛生マネジメント ・安全衛生委員会の開催(毎月) ・職場の安全相互診断(2月) 改善事項21件 ・作業環境測定の実施(9月、1月) ・職員研修を4回開催(交通安全、働き方改革、メンタルヘルス等に関する研修)【再掲】 ・労働安全衛生体制整備に係る資格取得・講習受講：3名受講 ・定期健康診断(7月、受診率100%)、特殊業務従事者・情報機器健康診断の実施 ○職場環境の整備 ・「いわて女性活躍認定企業等(ステップ2)」更新(認定期間：R6.6.27～R9.6.26) ・令和2年度に策定した「次世代育成支援及び女性活躍推進のための一般事業主行動計画」に基づく取組 ・1人当たり平均年次休暇取得日数は17.9日と高い水準を維持(令和5年度17.8日) ・育児支援を必要とする職員について、「育児支援計画シート」により上司と情報共有 ・育児休業取得職員2名(男性2名) ・「ワーク・ライフ・バランスシート」による仕事と生活の両立支援(H30年度～) ・「北東北女性研究者 研究・交流フェア」への参加 ・職員の子供が利用する託児ルームを設置(令和6年度は託児目的の利用は7回)	A		【参考：エネルギー使用量】 電力使用量(MWh) <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>2,131</td><td>2,110</td><td>2,089</td><td>2,068</td><td>2,047</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>2,127</td><td>2,054</td><td>1,759</td><td>1,873</td><td></td></tr> </table> 重油使用量(ℓ) <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>83,026</td><td>82,196</td><td>81,374</td><td>80,560</td><td>79,754</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>91,020</td><td>82,000</td><td>80,000</td><td>78,000</td><td></td></tr> </table> プロパンガス使用量(m³) <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>316</td><td>313</td><td>310</td><td>307</td><td>303</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>226</td><td>227</td><td>230</td><td>224</td><td></td></tr> </table> 水道使用量(m³) <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>3,574</td><td>3,538</td><td>3,503</td><td>3,468</td><td>3,433</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>3,236</td><td>2,992</td><td>3,103</td><td>3,172</td><td></td></tr> </table> 産業廃棄物排出量(kg) <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>4,285</td><td>4,242</td><td>4,200</td><td>4,158</td><td>4,116</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>2,670</td><td>1,708</td><td>4,126</td><td>2,497</td><td></td></tr> </table> 公用車燃料使用量(ℓ) <table border="1"> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>(除外)</td><td>(除外)</td><td>(除外)</td><td>(除外)</td><td>(除外)</td></tr> <tr> <td>実績</td><td>2,255</td><td>2,695</td><td>2,958</td><td>3,031</td><td></td></tr> </table> ※R3からは、燃料の削減を管理指標とすることで業務に支障が出るおそれがあることから、管理指標から除外したものと。	年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	2,131	2,110	2,089	2,068	2,047	実績	2,127	2,054	1,759	1,873		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	83,026	82,196	81,374	80,560	79,754	実績	91,020	82,000	80,000	78,000		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	316	313	310	307	303	実績	226	227	230	224		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	3,574	3,538	3,503	3,468	3,433	実績	3,236	2,992	3,103	3,172		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	4,285	4,242	4,200	4,158	4,116	実績	2,670	1,708	4,126	2,497		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	(除外)	(除外)	(除外)	(除外)	(除外)	実績	2,255	2,695	2,958	3,031	
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																												
管理指標	2,131	2,110	2,089	2,068	2,047																																																																																																												
実績	2,127	2,054	1,759	1,873																																																																																																													
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																												
管理指標	83,026	82,196	81,374	80,560	79,754																																																																																																												
実績	91,020	82,000	80,000	78,000																																																																																																													
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																												
管理指標	316	313	310	307	303																																																																																																												
実績	226	227	230	224																																																																																																													
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																												
管理指標	3,574	3,538	3,503	3,468	3,433																																																																																																												
実績	3,236	2,992	3,103	3,172																																																																																																													
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																												
管理指標	4,285	4,242	4,200	4,158	4,116																																																																																																												
実績	2,670	1,708	4,126	2,497																																																																																																													
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																												
管理指標	(除外)	(除外)	(除外)	(除外)	(除外)																																																																																																												
実績	2,255	2,695	2,958	3,031																																																																																																													

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																								
		【自己評価理由】 ・環境マネジメント及び安全衛生マネジメントについては計画どおり実施した。 ・エネルギー、水及び産業廃棄物について、毎年度管理指標を定め計画的に使用量・排出量の削減に努めており、令和6年度はいずれの項目も管理指標を下回り、目標を達成した。 ・労働災害は、令和3年2月以降発生していない。 ・交通事故は、平成24年2月以降発生していない。 ・1人当たり平均年次休暇取得日数は17.9日と多い。			【参考：労災等発生状況】 <table> <tr> <th></th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>労働災害(件)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr> <tr> <td>交通事故(件)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr> <tr> <td>健康診断受診率(%)</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td></td></tr> </table>		R3	R4	R5	R6	R7	労働災害(件)	0	0	0	0		交通事故(件)	0	0	0	0		健康診断受診率(%)	100	100	100	100	
	R3	R4	R5	R6	R7																								
労働災害(件)	0	0	0	0																									
交通事故(件)	0	0	0	0																									
健康診断受診率(%)	100	100	100	100																									

5 コンプライアンスの徹底及び社会貢献活動への積極的な取組

中期目標	組織の社会的信用や顧客満足の上昇を図るため、法令遵守はもとより、情報セキュリティを含めた内部規範や社会規範の遵守し、公正・公平な業務遂行を図る。 公正で透明性の高い法人運営を実現し、センターに対する企業、県民等の理解を深め、信頼を高めるため、積極的な情報の公開に努めるほか、情報の開示請求に適正に対応する。 青少年等の科学技術やものづくりへの関心を高めるための活動、施設の地域への開放など、社会貢献活動に取り組む。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																		
職場内でのハラスメント、情報セキュリティ違反、研究倫理違反及び不正経理などを防止するため、内部統制推進委員会の管理の下に実施する各種取組を通じ、役職員が一体となってコンプライアンスを推進する。 情報の公開については、地方独立行政法人法など法律に基づくもののほか、顧客情報や研究開発に係る守秘義務、知的財産など保護されるべき情報に対する管理体制に万全を期するとともに、公開することが望ましいと判断する情報については自主的に公開するものとする。 公正で透明性の高い法人運営を実現し、センターに対する企業、県民等の信頼と理解を高めるため、情報の開示請求に適正に対応する。 また、小中高校生を始めとした次代を担う世代やその保護者のものづくりに対する興味を喚起するため、関係機関との連携・協力の下、センター公開イベントの開催、児童生徒の見学受入れ、県内各地で実施されるものづくり体験教室の開催支援など、先端的な技術情報や岩手のものづくり技術に係る情報発信等に積極的に取り組む。	【取組項目】 ○コンプライアンス対策 ・内部統制推進委員会によるコンプライアンス取組の一元的実施 ・関係法令、要領等の適正な運用・指導の実施 ・情報セキュリティルールの運用 ・公的研究費の不正使用防止ルールの運用 ○情報の公開 ・地方独立行政法人法に基づく事項などの公開 ・情報の開示請求に対する適正対応 ○社会貢献活動 ・科学やものづくりに対する青少年等の関心を高める事業の継続支援 ・少年少女発明クラブ交流会の運営支援 ・センター公開イベントの開催や児童生徒の見学受入 ・中学校、高校からの講演依頼やインターンシップ受入に対する積極的対応 ・センター近隣の環境美化活動の実施	○コンプライアンス対策 ・毎月、内部統制推進委員会を開催し、コンプライアンスに係る訓示を行うなど、コンプライアンス全般に係る取組を徹底した。 ・コンプライアンスチェックシートによる自己検証を実施した(12月)。全65項目のチェック項目の平均点は5点満点で4.6点（前回の令和5年度調査と同点）。 ・職員の運転免許証チェックを実施。 ・外為法に基づく安全保障貿易管理に対応するため、規程類を整備した（R7年4月1日から運用開始）。 ・情報システム推進委員会を開催（4回）し、情報セキュリティ対策の確認と強化を推進。 ・公的研究費の不正使用防止ルールに基づき、全職員に対して意識啓発を実施（4/8全体会議等） ・全ての購入物品及び機器の修繕、保守について総務部職員による現物確認を徹底。 ○情報の公開 ・第4期中期目標、第4期中期計画、令和6年度事業計画、第3期事業実績及び評価、令和5年度事業実績及び評価、財務諸表等のホームページでの公開。 ○社会貢献活動 ・一般公開の開催（10/5） ・インターンシップの受入（大学生2名、産業技術短期大学校生2名、高校生2名）【再掲】 ・献血（11月、3月）の実施。 ・2024年台湾東部沖地震災害救援募金に協力。 ・センター敷地内及び周辺の清掃活動実施（10/2） 【自己評価理由】 ・計画に沿った取組を行い、コンプライアンスの確立に努め、コンプライアンスチェックの自己検証平均は高水準を維持した。 ・情報公開及び社会貢献活動を積極的に推進した。	A		インターンシップ受入の内訳 【再掲】 <table><tr><th>所属</th><th>校数</th><th>人数</th></tr><tr><td>大学・大学院</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>産技短大</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>高校</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>中学校</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>4</td><td>6</td></tr></table>	所属	校数	人数	大学・大学院	2	2	産技短大	1	2	高校	1	2	中学校	0	0	計	4	6
所属	校数	人数																					
大学・大学院	2	2																					
産技短大	1	2																					
高校	1	2																					
中学校	0	0																					
計	4	6																					

IV 財務内容の改善に関する事項

1 方針

年度計画	○ 設備導入、研究実施に当たり国等の外部資金の活用を図るとともに、自己収入を安定的に確保するための取組を積極的に行う。 ○ 業務の効率化、合理化を進めながら、計画的に経費の抑制に取り組む。 ○ 運営費交付金（人件費を除く）の効率化目標の達成に配慮した年間予算を作成し、その適正な執行に努める。
------	--

(1) 外部資金の活用と自己収入の確保

中期目標	設備導入、研究実施等に当たっては、国等の外部資金の活用を図る。 また、依頼試験、設備機器貸出などの利用促進により、自己収入を安定的に確保する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																				
設備導入、研究実施に当たり国等の外部資金の活用を図るために以下の取組を行う。 ① 国等の外部資金の獲得に向けた情報収集力の強化 ② 外部資金の採択向上に向けたセンター内での研究開発支援体制の強化と職員の能力向上のための研修等の実施 ③ 大学や国及び他県公設試、企業等との連携による外部資金の獲得 ④ 外部資金獲得に伴う管理法人業務の積極的な受託 ⑤ 受託研究の積極的な受託 また、自己収入を安定的に確保するため、依頼試験等や設備機器貸出などの利用促進に向けたPR活動を実施する。	・外部資金の獲得に向けた情報収集力の強化 ・外部資金の採択向上に向けた研究開発支援体制の強化と職員の能力向上のための研修等の実施 ・大学や国及び他公設試験研究機関、企業等との連携による外部資金の獲得 ・受託研究や管理法人業務の積極的な受託 ・第4期中期計画期間(R3～R7)中の目標として、自己収入額(ヘルステック・イノベーション・ハブ利用料等を除く)63,380千円/年を確保 ・社会経済情勢の変化に対応した使用料・手数料上限額の変更、機器貸出利用時等の技術指導料導入の検討 ・依頼試験、設備機器貸出等の利用促進に向けたPR活動の実施	○外部資金の獲得等 ・公募情報を収集しセンター内で共有 ・外部資金獲得を目的とした研修会の開催(11/1) ・ヘルステック・イノベーション・ハブ入居企業の外部資金研究の支援 ○自己収入額 133,699千円 ・ヘルステック・イノベーション・ハブを除く自己収入額 57,505千円 ・ヘルステック・イノベーション・ハブの自己収入額 76,194千円 ・公式YouTubeチャンネルの運用による施設利用促進活動の実施(センター設備紹介、業務紹介等) 【自己評価理由】 ・ヘルステック・イノベーション・ハブを除く自己収入額は、依頼試験手数料、機器貸付使用料(電波暗室含む)とも前年度より減少し、令和5年度から5,766千円減少した57,505千円となり、年間目標額の63,380千円を達成できなかった。	B		自己収入額 (単位:千円) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>手数料収益</td><td>21,106</td><td>18,556</td></tr><tr><td>使用料収益</td><td>92,727</td><td>90,242</td></tr><tr><td>雑収益</td><td>25,337</td><td>24,722</td></tr><tr><td>受取利息ほか</td><td>4</td><td>179</td></tr><tr><td>計</td><td>139,174</td><td>133,699</td></tr></table> ※うちヘルステック・イノベーション・ハブ分 <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>手数料収益</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>使用料収益</td><td>58,811</td><td>58,931</td></tr><tr><td>雑収益</td><td>17,092</td><td>17,263</td></tr><tr><td>受取利息ほか</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>75,903</td><td>76,194</td></tr></table> 注1)手数料収益:依頼試験等 注2)使用料収益:設備機器貸出		R5	R6	手数料収益	21,106	18,556	使用料収益	92,727	90,242	雑収益	25,337	24,722	受取利息ほか	4	179	計	139,174	133,699		R5	R6	手数料収益	0	0	使用料収益	58,811	58,931	雑収益	17,092	17,263	受取利息ほか	0	0	計	75,903	76,194
	R5	R6																																							
手数料収益	21,106	18,556																																							
使用料収益	92,727	90,242																																							
雑収益	25,337	24,722																																							
受取利息ほか	4	179																																							
計	139,174	133,699																																							
	R5	R6																																							
手数料収益	0	0																																							
使用料収益	58,811	58,931																																							
雑収益	17,092	17,263																																							
受取利息ほか	0	0																																							
計	75,903	76,194																																							

					ヘルステック・イノベーション・ハブを除く 自己収入額 (単位:千円) <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>手数料収益</td><td>21,106</td><td>18,556</td></tr><tr><td>使用料収益</td><td>33,916</td><td>31,311</td></tr><tr><td>雑収益</td><td>8,245</td><td>7,459</td></tr><tr><td>受取利息ほか</td><td>4</td><td>179</td></tr><tr><td>計</td><td>63,271</td><td>57,505</td></tr></table> 注1) 手数料収益: 依頼試験等 注2) 使用料収益: 設備機器貸出		R5	R6	手数料収益	21,106	18,556	使用料収益	33,916	31,311	雑収益	8,245	7,459	受取利息ほか	4	179	計	63,271	57,505
	R5	R6																					
手数料収益	21,106	18,556																					
使用料収益	33,916	31,311																					
雑収益	8,245	7,459																					
受取利息ほか	4	179																					
計	63,271	57,505																					

(2) 経費の抑制

中期目標 顧客へのサービスの向上を図りながら、運営経費の抑制に向けて業務を不断に検証し、必要に応じて改善や効率化を進める。

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																																																										
業務の効率化、合理化を進めながら、中期目標期間中の経費の抑制に計画的に取り組む。	・光熱水費等の増嵩抑制 ・運営費交付金の効率化に向けた業務の恒常的な見直し	○光熱水費等の増嵩抑制（光熱水費の縮減） ・エコマネジメントにおいて各部の重点目標を定めて、昼休み時の照明や不要な照明の消灯、適切な冷暖房運転、クールビズやウォームビズの実施等、光熱水費の縮減に努めた。 ・電力は、節電に努めるとともに、契約電力の見直し（650kW から 630kW に）を行った。使用量は管理指標を下回ったが、前年度より使用量・使用料金とも増加した。 ・重油の購入量は管理指標を下回り、前年度より減少したが、購入額は前年度を上回った。 ・水道は管理指標を下回る使用量となったが、使用量・使用料金は前年度を上回った。 ○運営費交付金の効率化に向けた取組 ・施設修繕等の優先度を勘案するとともに、オンライン会議の推進など、運営経費の節減に努めた。 ・出張旅費を振り込む金融機関口座について、振込手数料がかからない金融機関支店に口座を設けて振込口座とするよう職員に働きかけ、振込手数料の削減を図った。 【自己評価理由】 ・電力、水道は使用量、使用料金とも前年度より増加したが、管理指標を下回る使用量に抑えることができた。重油は前年度より購入量を減らし、購入額の増加を小規模にとどめた。使用料金の負担が大きい電力は、契約電力の見直しなどにより使用料金の抑制に努めた。 ・経費の抑制を図り、24,591 千円の当期総利益を確保することができた。	A		1 電力 (単位:MWh、千円) <table> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>2,131</td><td>2,110</td><td>2,089</td><td>2,068</td><td>2,047</td></tr> <tr> <td>使用量</td><td>2,127</td><td>2,054</td><td>1,759</td><td>1,873</td><td></td></tr> <tr> <td>使用料金</td><td>51,729</td><td>67,167</td><td>56,952</td><td>59,048</td><td></td></tr> </table> 2 重油 (単位:ℓ、千円) <table> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>83,026</td><td>82,196</td><td>81,374</td><td>80,560</td><td>79,754</td></tr> <tr> <td>購入量</td><td>91,020</td><td>82,000</td><td>80,000</td><td>78,000</td><td></td></tr> <tr> <td>購入額</td><td>10,138</td><td>9,337</td><td>9,614</td><td>9,773</td><td></td></tr> </table> 3 水道 (単位:m³、千円) <table> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>管理指標</td><td>3,574</td><td>3,538</td><td>3,503</td><td>3,468</td><td>3,433</td></tr> <tr> <td>使用量</td><td>3,236</td><td>2,992</td><td>3,103</td><td>3,172</td><td></td></tr> <tr> <td>使用料金</td><td>1,722</td><td>1,593</td><td>1,653</td><td>1,689</td><td></td></tr> </table> 4 公用車燃料 (単位:ℓ、千円) <table> <tr> <th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr> <tr> <td>購入量</td><td>2,255</td><td>2,695</td><td>2,958</td><td>3,031</td><td></td></tr> <tr> <td>購入額</td><td>350</td><td>470</td><td>513</td><td>515</td><td></td></tr> </table> ※管理指標なし	年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	2,131	2,110	2,089	2,068	2,047	使用量	2,127	2,054	1,759	1,873		使用料金	51,729	67,167	56,952	59,048		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	83,026	82,196	81,374	80,560	79,754	購入量	91,020	82,000	80,000	78,000		購入額	10,138	9,337	9,614	9,773		年度	R3	R4	R5	R6	R7	管理指標	3,574	3,538	3,503	3,468	3,433	使用量	3,236	2,992	3,103	3,172		使用料金	1,722	1,593	1,653	1,689		年度	R3	R4	R5	R6	R7	購入量	2,255	2,695	2,958	3,031		購入額	350	470	513	515	
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																										
管理指標	2,131	2,110	2,089	2,068	2,047																																																																																										
使用量	2,127	2,054	1,759	1,873																																																																																											
使用料金	51,729	67,167	56,952	59,048																																																																																											
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																										
管理指標	83,026	82,196	81,374	80,560	79,754																																																																																										
購入量	91,020	82,000	80,000	78,000																																																																																											
購入額	10,138	9,337	9,614	9,773																																																																																											
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																										
管理指標	3,574	3,538	3,503	3,468	3,433																																																																																										
使用量	3,236	2,992	3,103	3,172																																																																																											
使用料金	1,722	1,593	1,653	1,689																																																																																											
年度	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																										
購入量	2,255	2,695	2,958	3,031																																																																																											
購入額	350	470	513	515																																																																																											

(3) 事業の効率化

中期目標	運営費交付金を充当して行う事業については、「Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項」で定めた事項を反映させた中期計画の予算を作成し、効果的、効率的な運営を行う。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																								
運営費交付金を充当して行う事業について、中期目標期間中、毎年度１％以上の効率化を達成することとした中期計画の予算を作成し、当該予算による運営を行う。	中期計画による運営費交付金効率化の目標の達成 対前年度比△1.0％の効率化	事業の効率化に配慮して決定した運営費交付金の交付ルール(中期計画期間：Ｒ３～７)に基づき予算を作成し、Ｒ６年度においても当該予算内で法人の適正な運営を行った。	—	—	中期計画期間内予算 (単位：千円) <table> <tr> <th>区分</th><th>Ｒ３</th><th>Ｒ４</th><th>Ｒ５</th><th>Ｒ６</th><th>Ｒ７</th></tr> <tr> <td>業務経費</td><td>85,215</td><td>83,560</td><td>81,921</td><td>80,299</td><td>78,692</td></tr> <tr> <td>一般管理費</td><td>148,066</td><td>146,586</td><td>145,121</td><td>143,670</td><td>142,234</td></tr> <tr> <td>計</td><td>233,281</td><td>230,146</td><td>227,042</td><td>223,969</td><td>220,926</td></tr> </table>	区分	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７	業務経費	85,215	83,560	81,921	80,299	78,692	一般管理費	148,066	146,586	145,121	143,670	142,234	計	233,281	230,146	227,042	223,969	220,926
区分	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７																								
業務経費	85,215	83,560	81,921	80,299	78,692																								
一般管理費	148,066	146,586	145,121	143,670	142,234																								
計	233,281	230,146	227,042	223,969	220,926																								

2 予算

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
令和3～7年度 予算 (単位：百万円)	令和6年度 予算 (単位：百万円)	令和6年度 決算 (単位：百万円)	—	—	
区 分	区 分	区 分			
収入	収入	収入			
運営費交付金	運営費交付金	運営費交付金			
補助金	補助金	補助金			
自己収入	自己収入	自己収入			
受託研究等事業収入	受託研究等事業収入	受託研究等事業収入			
目的積立金取崩収入	目的積立金取崩	寄附金収入			
支出	支出	支出			
運営費事業	運営費事業	運営費事業			
人件費	人件費	人件費			
業務経費	業務経費	業務経費			
一般管理費	一般管理費	一般管理費			
施設整備費	施設整備費	施設整備費			
受託事業費	受託事業等	受託事業等			
寄附金事業		寄附金事業			

3 収支計画

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項																																																																																																																																																																																																
令和３～７年度 収支計画 (単位：百万円)	令和６年度 収支計画 (単位：百万円)	令和６年度 収支実績 (単位：百万円)	—	—																																																																																																																																																																																																	
<table><tr><th>区 分</th><th>金額</th></tr><tr><td>費用の部</td><td>6,043</td></tr><tr><td> 経常費用</td><td>6,043</td></tr><tr><td> 業務費</td><td>3,351</td></tr><tr><td> 人件費</td><td>2,697</td></tr><tr><td> 業務経費</td><td>654</td></tr><tr><td> 一般管理費</td><td>1,391</td></tr><tr><td> 受託事業等</td><td>350</td></tr><tr><td> 財務費用</td><td>0</td></tr><tr><td> 雑損</td><td>0</td></tr><tr><td> 減価償却費</td><td>951</td></tr><tr><td>臨時損失</td><td>0</td></tr><tr><td>収益の部</td><td>5,913</td></tr><tr><td> 経常収益</td><td>5,913</td></tr><tr><td> 運営費交付金収益</td><td>3,759</td></tr><tr><td> 自己収益</td><td>654</td></tr><tr><td> 補助金等収益</td><td>199</td></tr><tr><td> 受託研究等事業収益</td><td>350</td></tr><tr><td> 財務収益</td><td>0</td></tr><tr><td> 雑益</td><td>0</td></tr><tr><td> 資産見返運営費交付金戻入</td><td>951</td></tr><tr><td>臨時利益</td><td>0</td></tr><tr><td>純利益</td><td>△130</td></tr><tr><td>目的積立金取崩</td><td>130</td></tr><tr><td>総利益</td><td>0</td></tr></table>	区 分	金額				費用の部	6,043	経常費用	6,043	業務費	3,351	人件費	2,697	業務経費	654	一般管理費	1,391	受託事業等	350	財務費用	0	雑損	0	減価償却費	951	臨時損失	0	収益の部	5,913	経常収益	5,913	運営費交付金収益	3,759	自己収益	654	補助金等収益	199	受託研究等事業収益	350	財務収益	0	雑益	0	資産見返運営費交付金戻入	951	臨時利益	0	純利益	△130	目的積立金取崩	130	総利益	0	<table><tr><th>区 分</th><th>金額</th></tr><tr><td>費用の部</td><td>1,197</td></tr><tr><td> 経常費用</td><td>1,197</td></tr><tr><td> 業務費</td><td>695</td></tr><tr><td> 人件費</td><td>518</td></tr><tr><td> 業務経費</td><td>177</td></tr><tr><td> 一般管理費</td><td>259</td></tr><tr><td> 受託事業等</td><td>31</td></tr><tr><td> 財務費用</td><td>0</td></tr><tr><td> 雑損</td><td>0</td></tr><tr><td> 減価償却費</td><td>212</td></tr><tr><td>収益の部</td><td>1,157</td></tr><tr><td> 経常収益</td><td>1,157</td></tr><tr><td> 運営費交付金</td><td>742</td></tr><tr><td> 自己収益</td><td>143</td></tr><tr><td> 補助金等収益</td><td>29</td></tr><tr><td> 受託研究等事業収益</td><td>31</td></tr><tr><td> 財務収益</td><td>0</td></tr><tr><td> 雑益</td><td>0</td></tr><tr><td> 資産見返運営費交付金戻入</td><td>20</td></tr><tr><td> 資産見返補助金等戻入</td><td>189</td></tr><tr><td> 資産見返寄付金戻入</td><td>0</td></tr><tr><td> 資産見返目的積立金戻入</td><td>3</td></tr><tr><td>純利益</td><td>△40</td></tr><tr><td>目的積立金取崩</td><td>40</td></tr><tr><td>総利益</td><td>0</td></tr></table>	区 分	金額	費用の部	1,197	経常費用	1,197	業務費	695	人件費	518	業務経費	177	一般管理費	259	受託事業等	31	財務費用	0	雑損	0	減価償却費	212	収益の部	1,157	経常収益	1,157	運営費交付金	742	自己収益	143	補助金等収益	29	受託研究等事業収益	31	財務収益	0	雑益	0	資産見返運営費交付金戻入	20	資産見返補助金等戻入	189	資産見返寄付金戻入	0	資産見返目的積立金戻入	3	純利益	△40	目的積立金取崩	40	総利益	0	<table><tr><th>区 分</th><th>実績</th><th>差額(実績－計画)</th></tr><tr><td>費用の部</td><td>1,091</td><td>△106</td></tr><tr><td> 経常費用</td><td>1,091</td><td>△106</td></tr><tr><td> 業務費</td><td>655</td><td>△40</td></tr><tr><td> 人件費</td><td>562</td><td>44</td></tr><tr><td> 業務経費(償却除試験費)</td><td>93</td><td>△84</td></tr><tr><td> 一般管理費(内管+技支+償却除普通運)</td><td>280</td><td>21</td></tr><tr><td> 受託事業等</td><td>39</td><td>8</td></tr><tr><td> 財務費用</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td> 雑損</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td> 減価償却費</td><td>117</td><td>△95</td></tr><tr><td>収益の部</td><td>1,087</td><td>△70</td></tr><tr><td> 経常収益</td><td>1,087</td><td>△70</td></tr><tr><td> 運営費交付金</td><td>717</td><td>△25</td></tr><tr><td> 自己収益(手数料・使用料)</td><td>109</td><td>△34</td></tr><tr><td> 補助金等収益</td><td>2</td><td>△27</td></tr><tr><td> 受託研究等事業収益</td><td>39</td><td>8</td></tr><tr><td> 財務収益</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td> 雑益</td><td>25</td><td>25</td></tr><tr><td> 資産見返運営費交付金戻入</td><td>8</td><td>△12</td></tr><tr><td> 資産見返補助金等戻入</td><td>105</td><td>△84</td></tr><tr><td> 資産見返寄附金戻入</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td> 資産見返目的積立金戻入</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td> 見返収益(賞与・退給)</td><td>79</td><td>79</td></tr><tr><td>経常利益</td><td>△4</td><td>36</td></tr><tr><td>臨時損失(賞与・退給引当金繰入)</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>臨時利益(見返収益・引当金戻入)</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>純利益</td><td>△4</td><td>36</td></tr><tr><td>目的積立金取崩</td><td>28</td><td>△12</td></tr><tr><td>総利益</td><td>25</td><td>25</td></tr></table>	区 分	実績	差額(実績－計画)	費用の部	1,091	△106	経常費用	1,091	△106	業務費	655	△40	人件費	562	44	業務経費(償却除試験費)	93	△84	一般管理費(内管+技支+償却除普通運)	280	21	受託事業等	39	8	財務費用	－	－	雑損	0	0	減価償却費	117	△95	収益の部	1,087	△70	経常収益	1,087	△70	運営費交付金	717	△25	自己収益(手数料・使用料)	109	△34	補助金等収益	2	△27	受託研究等事業収益	39	8	財務収益	0	0	雑益	25	25	資産見返運営費交付金戻入	8	△12	資産見返補助金等戻入	105	△84	資産見返寄附金戻入	0	0	資産見返目的積立金戻入	3	0	見返収益(賞与・退給)	79	79	経常利益	△4	36	臨時損失(賞与・退給引当金繰入)	－	－	臨時利益(見返収益・引当金戻入)	－	－	純利益	△4	36	目的積立金取崩	28	△12	総利益	25	25
区 分	金額																																																																																																																																																																																																				
費用の部	6,043																																																																																																																																																																																																				
経常費用	6,043																																																																																																																																																																																																				
業務費	3,351																																																																																																																																																																																																				
人件費	2,697																																																																																																																																																																																																				
業務経費	654																																																																																																																																																																																																				
一般管理費	1,391																																																																																																																																																																																																				
受託事業等	350																																																																																																																																																																																																				
財務費用	0																																																																																																																																																																																																				
雑損	0																																																																																																																																																																																																				
減価償却費	951																																																																																																																																																																																																				
臨時損失	0																																																																																																																																																																																																				
収益の部	5,913																																																																																																																																																																																																				
経常収益	5,913																																																																																																																																																																																																				
運営費交付金収益	3,759																																																																																																																																																																																																				
自己収益	654																																																																																																																																																																																																				
補助金等収益	199																																																																																																																																																																																																				
受託研究等事業収益	350																																																																																																																																																																																																				
財務収益	0																																																																																																																																																																																																				
雑益	0																																																																																																																																																																																																				
資産見返運営費交付金戻入	951																																																																																																																																																																																																				
臨時利益	0																																																																																																																																																																																																				
純利益	△130																																																																																																																																																																																																				
目的積立金取崩	130																																																																																																																																																																																																				
総利益	0																																																																																																																																																																																																				
区 分	金額																																																																																																																																																																																																				
費用の部	1,197																																																																																																																																																																																																				
経常費用	1,197																																																																																																																																																																																																				
業務費	695																																																																																																																																																																																																				
人件費	518																																																																																																																																																																																																				
業務経費	177																																																																																																																																																																																																				
一般管理費	259																																																																																																																																																																																																				
受託事業等	31																																																																																																																																																																																																				
財務費用	0																																																																																																																																																																																																				
雑損	0																																																																																																																																																																																																				
減価償却費	212																																																																																																																																																																																																				
収益の部	1,157																																																																																																																																																																																																				
経常収益	1,157																																																																																																																																																																																																				
運営費交付金	742																																																																																																																																																																																																				
自己収益	143																																																																																																																																																																																																				
補助金等収益	29																																																																																																																																																																																																				
受託研究等事業収益	31																																																																																																																																																																																																				
財務収益	0																																																																																																																																																																																																				
雑益	0																																																																																																																																																																																																				
資産見返運営費交付金戻入	20																																																																																																																																																																																																				
資産見返補助金等戻入	189																																																																																																																																																																																																				
資産見返寄付金戻入	0																																																																																																																																																																																																				
資産見返目的積立金戻入	3																																																																																																																																																																																																				
純利益	△40																																																																																																																																																																																																				
目的積立金取崩	40																																																																																																																																																																																																				
総利益	0																																																																																																																																																																																																				
区 分	実績	差額(実績－計画)																																																																																																																																																																																																			
費用の部	1,091	△106																																																																																																																																																																																																			
経常費用	1,091	△106																																																																																																																																																																																																			
業務費	655	△40																																																																																																																																																																																																			
人件費	562	44																																																																																																																																																																																																			
業務経費(償却除試験費)	93	△84																																																																																																																																																																																																			
一般管理費(内管+技支+償却除普通運)	280	21																																																																																																																																																																																																			
受託事業等	39	8																																																																																																																																																																																																			
財務費用	－	－																																																																																																																																																																																																			
雑損	0	0																																																																																																																																																																																																			
減価償却費	117	△95																																																																																																																																																																																																			
収益の部	1,087	△70																																																																																																																																																																																																			
経常収益	1,087	△70																																																																																																																																																																																																			
運営費交付金	717	△25																																																																																																																																																																																																			
自己収益(手数料・使用料)	109	△34																																																																																																																																																																																																			
補助金等収益	2	△27																																																																																																																																																																																																			
受託研究等事業収益	39	8																																																																																																																																																																																																			
財務収益	0	0																																																																																																																																																																																																			
雑益	25	25																																																																																																																																																																																																			
資産見返運営費交付金戻入	8	△12																																																																																																																																																																																																			
資産見返補助金等戻入	105	△84																																																																																																																																																																																																			
資産見返寄附金戻入	0	0																																																																																																																																																																																																			
資産見返目的積立金戻入	3	0																																																																																																																																																																																																			
見返収益(賞与・退給)	79	79																																																																																																																																																																																																			
経常利益	△4	36																																																																																																																																																																																																			
臨時損失(賞与・退給引当金繰入)	－	－																																																																																																																																																																																																			
臨時利益(見返収益・引当金戻入)	－	－																																																																																																																																																																																																			
純利益	△4	36																																																																																																																																																																																																			
目的積立金取崩	28	△12																																																																																																																																																																																																			
総利益	25	25																																																																																																																																																																																																			

4 資金計画

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
令和3～7年度 資金計画 (単位：百万円)	令和6年度 資金計画 (単位：百万円)	令和6年度 資金実績 (単位：百万円)	—	—	
区 分	区 分	区 分			
金額	金額	実績 差額(実績－計画)			
資金支出	資金支出	資金支出			
5,311	985	1,049 64			
業務活動による支出	業務活動による支出	業務活動による支出			
5,092	985	1,049 64			
投資活動による支出	投資活動による支出	投資活動による支出			
219	0	0 0			
財務活動による支出	財務活動による支出	財務活動による支出			
0	0	0 0			
次期中期目標への繰越金	次期中期目標への繰越金	次期中期目標への繰越金			
0	0	0 0			
資金収入	資金収入	資金収入	—	—	
5,311	985	1,093 108			
業務活動による収入	業務活動による収入	業務活動による収入			
5,181	945	1,058 113			
運営費交付金による収入	運営費交付金による収入	運営費交付金による収入			
3,382	742	856 114			
補助金による収入	補助金による収入	補助金による収入			
345	29	29 0			
依頼試験及び機器貸付等による収入	依頼試験及び機器貸付等による収入	依頼試験及び機器貸付等による収入			
654	143	134 △9			
受託研究等による収入	受託研究等による収入	受託研究等による収入			
350	31	39 8			
投資活動による収入	目的積立金取崩による収入	目的積立金取崩収入			
0	40	35 △5			
財務活動による収入	投資活動による収入	投資活動による収入			
0	0	0 0			
前期中期目標からの繰越	財務活動による収入	財務活動による収入			
130	0	0 0			
		資金増加額	44 44		

V 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
V 短期借入金の限度額 1 短期借入金の限度額 230 百万円 2 想定される理由 運営費交付金の受入遅延や事故の発生等により、一時的に支払資金の不足が生じた際に借入れすることを想定している。	V 短期借入金の限度額 1 短期借入金の限度額 230 百万円（中期計画における承認額） 2 必要理由 運営費交付金の受入遅延や事故の発生等により、一時的に支払資金の不足が生じた際に借入れすることを想定している。	借入実績なし	—	—	

VI 重要な財産の譲渡・担保計画

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
VI 重要な財産の譲渡・担保計画 なし	VI 重要な財産の譲渡・担保計画 なし	実績なし	—	—	

VII 剰余金の使途

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
VII 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合は、企業支援の充実強化や人材育成及び施設・設備の改善に充当する。	VII 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合は、企業支援の充実強化や人材育成及び施設・設備の改善に充当する。	・目的積立金 35,125 千円を取り崩し、緊急を要する施設修繕等に充当した。	—	—	

Ⅷ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 試験研究機器の整備・活用

中期目標	研究開発の推進や企業等のニーズに合致した良質なサービスを継続して提供するため、試験研究機器を適切に管理・活用するとともに、計画的な整備を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項						
中期目標の達成及び技術ロードマップの推進のため、備品導入計画に基づく試験研究機器の新規導入及び更新を行うとともに、適切な維持管理・修繕のために必要な予算を確保する。 試験研究機器の整備に当たっては、国等による補助金の獲得や幅広い外部資金の活用等によって資金を確保する。	本事業計画の達成及び技術ロードマップの推進のため、備品導入計画に基づく試験研究機器の新規導入及び更新を行うとともに、適切な維持管理に努める。 【取組項目】 ①試験研究機器の新規導入・更新 ・備品導入計画に基づく試験研究機器の新規導入・更新 ・J K A補助金等の活用・確保 ②試験研究機器の維持管理 ・試験研究設備機器の現況調査（実査）、整理の実施 ・試験研究機器の適切な維持管理・修繕	①主要試験研究機器の導入整備 ・（公財）J K A補助金 ▷ マイクロフォーカスX線C T装置の導入 39,897 千円（うち補助金 26,598 千円） ・目的積立金による導入 なし ②試験研究機器の適切な維持管理・修繕の実施 厳しい財政状況のなか、緊急性を勘案して、対応しなければ業務に影響が出るおそれのある機器の修繕を実施した。 【自己評価理由】 ・J K A補助金を活用し、試験研究機器の整備を進めた。 ・機器の状態、使用頻度及び修理優先度を勘案しながら保守点検に努めた。	A		試験研究機器導入に係る補助金等交付額 （単位:千円） <table><tr><td></td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>J K A補助金</td><td>19,932</td><td>26,598</td></tr></table>		R5	R6	J K A補助金	19,932	26,598
	R5	R6									
J K A補助金	19,932	26,598									

2 施設・設備の計画的な修繕・整備

中期目標 良質な顧客サービスを安定的に提供するため、施設・設備の計画的な修繕や更新を行う。

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
施設・設備の修繕や更新は、第3期から策定している修繕計画を随時更新しながら、計画的に実施する。 また、施設・設備の適法・適正な管理のために必要とされる法定資格取得者を計画的に育成・確保する。	安定的なサービスの継続とともに技術支援機能の充実強化を図るため、施設・設備の計画的な修繕や整備に努める。 【取組項目】 ①施設・設備の計画的な修繕・整備 ・修繕計画に基づく施設・設備の計画的な修繕・整備 ②法定資格取得者の育成・確保 ・施設・設備の適法・適正な管理のために必要とされる法定資格取得者の計画的育成・確保	①施設・設備の計画的な修繕・整備 平成6年の開所から相当な期間が経過して施設の老朽化が進んでおり、修繕が必要な箇所が相当数にのぼっているが、厳しい財政状況のなか、緊急性を勘案して、対応しなければ業務に影響が出るおそれのある個所の修繕等を実施した。 ・運営費交付金による小規模修繕：（11件） 2,442千円 ・目的積立金による中規模修繕：（2件） 6,941千円 ▷ 理事長室・副理事長室・企画支援部事務室エアコン更新工事（4,829千円） ▷ 醸造食品実験棟製パン試験室エアコン更新工事（2,112千円） ・施設設備整備費補助金による大規模修繕 なし ・自己収入による整備 なし ②法定資格取得者の育成・確保 ・労働安全衛生体制整備に係る資格取得・講習受講：3名受講【再掲】 【自己評価理由】 ・既存の施設・設備について、中長期の修繕計画や緊急性、予算等を勘案して、センターの維持管理に必要な修繕・整備を実施した。 ・計画的な法定資格取得者の育成・確保を行うことができた。	A		

3 人事に関する計画

中期計画	年度計画	計画の進行状況	自己評価	県評価	特記事項
中期目標の達成及び技術ロードマップの推進のために、所要の人員の確保、特に専門性の高い人材の確保を計画的に進める。 また、人材育成ビジョンに基づき、研修等を通じた職員の能力向上を図るほか効果的かつ効率的な人的資源の配分を行う。	専門性の高い人材の確保のため、「人材育成ビジョン」に基づき、研修等を通じた職員の能力の向上を図るなど効果的かつ効率的な人的資源配分に努める。 【取組項目】 ①効果的・効率的な人的資源配分 ・中長期の採用計画に係る専門分野等の検討 ②職員の能力向上 ・中小企業大学校研修、公募型職員研修等への職員の派遣 ・県が実施する職員研修への派遣 ・大学院修学支援制度による専門的能力及び知識の習得やその資質の向上	①効果的・効率的な人的資源配分 ・人事に関する計画については、退職者の補充のため、情報工学1名、材料工学1名の研究職員を募集した（募集期間2/25～4/4、採用予定日 令和7年8月1日）。 ・再任用職員5名の任用等により専門知識・技術や経験の円滑な継承を推進した。 ・センターOB人材が業務を通じて培った豊富な専門知識や経験をセンター業務に活かすため令和元年度に創設した企業支援アドバイザー制度に基づき7名を委嘱した。【再掲】 ・中期計画推進に向けた助言等を受けるため顧問1名の委嘱を継続した。 ②職員の能力の向上 ・公設試職員としての能力向上や企業支援に係る業務遂行能力向上のため、中小企業大学校東京校で開催された研修に4名派遣 【再掲】 ・公募型職員研修として所内公募により15名受講【再掲】 ・県能力開発研修の基本研修については、県職員と同様の基準による受講派遣を行い、業務遂行能力や職位にふさわしい能力の向上等を図った。 ・大学院博士課程修学支援制度は、令和6年度は応募なし。 【自己評価理由】 ・退職者の補充のため、県と調整のうえ研究職員2名を募集し、令和7年度中に採用するように努めた。 ・公募型職員研修として所内から研修受講希望を募り、可能な限り職員の希望に対応し、意欲ある職員の能力向上を支援した。	A		「人材育成ビジョン」は令和3年8月に改訂 ・センターが職員に求める能力と職員一人ひとりのキャリアデザイン形成に向けた能力の開発を両立させ、顧客サービスの提供を持続可能なシステムとして構築していくために、第4期中期計画期間中に取り組む人材育成の基本的な方針を定めた。 基本研修： ・新採用研修（1名） ・採用3年目職員研修（2名） ・中堅職員研修（0名） ・新任主査研修（2名） ・新任主任主査研修（0名） ・新任担当課長研修（2名） ・新任総括課長研修（2名）